

## 第3章 訓練開始時までの取組経緯



## 第3章 訓練開始時までの取組経緯

### 第1節 実施施設、訓練実施機関、検証訓練コース

検証訓練については、委託要領に基づき実施することとし、委託訓練の実施主体は公共職業能力開発施設である必要があることから、各訓練実施機関が所在地する地域の職業能力開発促進センターを実施主体とし、具体的には、埼玉支部埼玉職業能力開発促進センター、大阪支部関西職業能力開発促進センター、島根支部島根職業能力開発促進センター、岡山支部岡山職業能力開発促進センター、熊本支部熊本職業能力開発促進センター(以下「実施施設」という。)とした。

それぞれの実施施設、訓練実施機関、検証訓練コース等を次に示す。

#### 1. 埼玉支部埼玉職業能力開発促進センター

訓練実施機関：ヒートウェーブ株式会社

所在地：東京都

訓練科名：サイバーセキュリティマネジメント科

カリキュラム：図表3-1

訓練期間：令和4年9月16日～令和4年12月16日

日別計画表：図表3-2

#### 2. 大阪支部関西職業能力開発促進センター

訓練実施機関：北大阪商工会議所

所在地：大阪府

訓練科名：Web アプリプログラマー(Java 言語)養成科

カリキュラム：図表3-3

訓練期間：令和4年9月16日～令和4年12月16日

日別計画表：図表3-4

#### 3. 島根支部島根職業能力開発促進センター

訓練実施機関：株式会社ソコロシステムズ

所在地：島根県

訓練科名：IT 人材育成科

カリキュラム：図表3-5

訓練期間：令和4年9月16日～令和4年12月16日

日別計画表：図表3-6

#### 4. 岡山支部岡山職業能力開発促進センター

訓練実施機関：有限会社エヌティ・クリエイト

所在地：岡山県

訓練科名：IT 導入リーダー育成科

カリキュラム：図表 3-7

訓練期間：令和 4 年 9 月 16 日～令和 4 年 12 月 15 日

日別計画表：図表 3-8

#### 5. 熊本支部熊本職業能力開発促進センター

訓練実施機関：キャリア教育プラザ株式会社

所在地：熊本県

訓練科名：Web デザイナー養成科

カリキュラム：図表 3-9

訓練期間：令和 4 年 9 月 16 日～令和 4 年 12 月 16 日

日別計画表：図表 3-10

以下に各検証訓練コースのカリキュラム及び日別計画表を示す。

図表3-1 IT分野カリキュラム(サイバーセキュリティマネジメント科)

訓練実施機関名 ヒートウェーブ株式会社

訓練科名	サイバーセキュリティマネジメント科	就職先 の 職 務	システム利用者 管理職
訓練期間	令和4年9月16日～令和4年12月16日(3か月)		システム管理者 セキュリティ担当者
訓練目標	<p>ITやインターネットは現代社会や業務において欠かせないインフラとなっているとともに、情報セキュリティの知識は、ITを利用する全ての方が知っておくべき必須事項です。</p> <p>情報セキュリティにおける基礎的な用語から、脅威動向、発生事例、サイバー攻撃やマルウェアの仕組み、リスク管理、インシデント対応の考え方や組織内で発生するセキュリティ事故に対して迅速かつ適切に対応できる知識とスキルを習得します。</p>		
仕上がり像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ITの基礎知識や情報セキュリティに関する基本的な用語を理解することができる</li> <li>・セキュリティ脅威やリスクの考え方を理解し必要な対策を検討できるようになる</li> <li>・組織内における情報セキュリティマネジメントができるようになる</li> <li>・ログファイルの基本的な調査ができるようになる</li> <li>・サイバーインシデント対応に関する流れと対応について理解できるようになる</li> </ul>		
訓練内容	科 目		訓練時間
	入所式等	入所式、オリエンテーション、修了式	
	コンピュータ・ネットワーク基礎	ハードウェア、ソフトウェア、ソフトウェア開発言語概要、ネットワーク概要、ネットワーク通信の基礎(TCP/IPの概要)、無線通信技術、サーバ概要、情報セキュリティの基礎	48時間
	法務	情報セキュリティ関連法規(サイバーセキュリティ基本法/不正アクセス禁止法/個人情報保護法/刑法/その他のセキュリティ関連法規・基準) その他の法規・標準(知的財産権/労働関連・取引関連法規/その他の法規・ガイドライン・技術者倫理/標準化関連)	6時間

	<p>マネジメント</p>	<p>システム監査(システム監査/内部統制)                  サービスマネジメント(サービスマネジメント/                  サービスマネジメントシステムの計画及び運用/                  サービスマネジメントシステムの計画及び運用/                  パフォーマンス評価及び改善/サービスの運用/                  ファシリティマネジメント)                  プロジェクトマネジメント(プロジェクトマネジ                  メント/プロジェクトの統合/プロジェクトのス                  テークホルダ/プロジェクトのスコープ/プロジ                  ェクトの資源/プロジェクトの時間/プロジェ                  クトのコスト/プロジェクトのリスク/プロジェ                  クトの品質/プロジェクトの調達/プロジェクトの                  コミュニケーション)</p>	<p>18 時間</p>
	<p>ストラテジ</p>	<p>企業活動(経営・組織論/OR・IE/会計・財務)                  システム戦略(情報システム戦略/業務プロセス/                  ソリューションビジネス)                  システム企画(システム化計画/要件定義/調達計                  画・実施)</p>	<p>12 時間</p>
	<p>情報漏えいの原因と対                  応・対策</p>	<p>情報漏えいの原因と損害、情報漏えいが起きて                  しまった場合にすべきこと、情報漏えいを未然                  に防ぐために行うこと</p>	<p>6 時間</p>
	<p>情報セキュリティの基                  礎知識</p>	<p>情報セキュリティとは(情報セキュリティの目的                  と考え方/情報セキュリティの重要性/脅威と脆                  弱性/不正と攻撃のメカニズム)                  サイバー攻撃手法 1(サイバー攻撃法/暗号化技                  術)                  サイバー攻撃手法 2(認証技術/利用者認証・生体                  認証/公開鍵基盤)</p>	<p>12 時間</p>

	情報セキュリティ管理	情報セキュリティマネジメント(情報セキュリティ管理/情報セキュリティ諸規定/情報セキュリティマネジメントシステム/情報セキュリティ継続) リスク分析と評価(情報資産の調査・分類/リスクの種類/情報セキュリティリスクアセスメント/情報セキュリティリスク対応) 情報セキュリティに関する取組み(情報セキュリティ組織・機関/セキュリティ評価)	12 時間
	情報セキュリティ対策	人的セキュリティ対策 技術的セキュリティ対策(クラッキング・不正アクセス対策/マルウェア・不正プログラム対策/携帯端末・無線 LAN のセキュリティ対策/デジタルフォレンジックス・証拠保全対策/その他の技術的セキュリティ対策) 物理的セキュリティ対策 セキュリティ実装技術(セキュアプロトコル/ネットワークセキュリティ/データベースセキュリティ/アプリケーションセキュリティ)	12 時間
実 技	サーバ構築	WWW サーバ、DNS サーバ、SMTP サーバ、POP サーバ、IMAP サーバ、FTP サーバ、プロキシサーバ、NTP サーバ、データベースサーバ、認証サーバ、仮想サーバ	42 時間
	データベースと SQL	はじめての MySQL [1]、MySQL [1]の環境設定、データベース作成	12 時間
	通信ログ解析	ログファイルの種類と格納場所(アクセスログ、認証ログ、システムログ、messages、syslog、lastlog、sulog、cookie) ログから得られる情報、ログの分析手法 ファイアウォールにおけるログの収集・分析	24 時間
	デジタルフォレンジックの基礎	活用事例、フォレンジックの対応フロー、削除ファイルの復元	12 時間

サイバー攻撃の手法と対策	情報セキュリティの概要(ぜい弱性、犯罪者・攻撃者の種類及び動機) サイバー犯罪・サイバー攻撃概要(SQL インジェクション、Dos 攻撃、標的型メール攻撃、水飲み場型攻撃、XSS、フィッシング等) 巧妙化するマルウェアの特徴と検知の仕組み	24 時間
	暗号化の種類(共通鍵暗号化方式、公開鍵暗号化方式、ハイブリッド方式) 暗号の応用(無線 LAN における通信の暗号化、SSL) 認証(パスワード認証、バイオメトリクス認証、リモートアクセス)	12 時間
	準備行為(ポートスキャン)	12 時間
	公開情報からの攻撃対象の選定(Shodan <sup>[2]</sup> 、Google Dorks 検索等)	6 時間
	インシデント対応総合演習 動作履歴、通信履歴の分析演習 公開されている Windows サーバに対してぜい弱性をついたサイバー攻撃の発生を受理したとの想定に基づき、サーバの操作履歴、通信履歴等を分析し攻撃元及び攻撃方法を特定し、必要な対策を実施する	36 時間
訓練時間総合計 306 時間(学科 126 時間、実技 180 時間)		
主要な機器設備 (参 考)	パソコン、カメラ、マイク、インターネット接続環境、クラウド演習環境(Microsoft Azure <sup>[3]</sup> )、Zoom <sup>[4]</sup> 、オンライン学習システム(スマートスタディ)	

※就職支援については、キャリアコンサルティングの中で受講者個々の進捗状況に合わせて、応募書類の作成・添削指導、ジョブ・カードの作成支援、面接対策、その他就職相談の内容を実施。



図表3-2 日別計画表

訓練コース名: サイバーセキュリティマネジメント科 受託希望機関名: ヒートウェーブITアカデミー

1 か 月 目	月	9														10																		
	日	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		
	曜	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
	訓練内容	開講式・オリエンテーション(3H)				学科(コンピュータ・ネットワーク基礎)	学科(コンピュータ・ネットワーク基礎)	学科(コンピュータ・ネットワーク基礎)				学科(コンピュータ・ネットワーク基礎)	学科(コンピュータ・ネットワーク基礎)	学科(コンピュータ・ネットワーク基礎)	学科(コンピュータ・ネットワーク基礎)	学科(コンピュータ・ネットワーク基礎)	学科(コンピュータ・ネットワーク基礎)			実技(サーバ構築)	実技(サーバ構築)	実技(サーバ構築)	実技(サーバ構築)	実技(サーバ構築)			実技(サーバ構築)	実技(サーバ構築)	実技(サーバ構築)	実技(データベースとSQL)	実技(データベースとSQL)			
	時間					6	6	6				6	6	6	6	6	6			6	6	6	6	6			6	6	6	6				
時間小計																																		102

2 か 月 目	月	10														11																		
	日	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		
	曜	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水		
	訓練内容	学科(法務)	学科(マネジメント)	学科(マネジメント)	学科(マネジメント)	キャリアコンサルティング		学科(ストラテジ)	学科(ストラテジ)	学科(情報漏えいの原因と対応・対策)	学科(情報セキュリティの基礎知識)	学科(情報セキュリティの基礎知識)	学科(情報セキュリティ管理)	学科(情報セキュリティ管理)	学科(情報セキュリティ対策)								学科(情報セキュリティ対策)	実技(通信ログ解析)	実技(通信ログ解析)	実技(通信ログ解析)				キャリアコンサルティング	実技(通信ログ解析)			
	時間	6	6	6	6				6	6	6	6	6			6	6	6						6	6	6	6					6		
時間小計																																		102

3 か 月 目	月	11														12																		
	日	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16			
	曜	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金			
	訓練内容	実技(デジタルフォレンジックの基礎)	実技(デジタルフォレンジックの基礎)			キャリアコンサルティング		実技(サイバー攻撃の手法と対策)	実技(サイバー攻撃の手法と対策)			実技(サイバー攻撃の手法と対策)	実技(サイバー攻撃の手法と対策)	実技(サイバー攻撃の手法と対策)	実技(サイバー攻撃の手法と対策)	実技(サイバー攻撃の手法と対策)	実技(サイバー攻撃の手法と対策)	実技(サイバー攻撃の手法と対策)	実技(サイバー攻撃の手法と対策)	実技(サイバー攻撃の手法と対策)	実技(サイバー攻撃の手法と対策)	キャリアコンサルティング	実技(インシデント対応総合演習)	実技(インシデント対応総合演習)	実技(インシデント対応総合演習)	実技(インシデント対応総合演習)	実技(インシデント対応総合演習)	実技(インシデント対応総合演習)	実技(インシデント対応総合演習)	実技(インシデント対応総合演習)	実技(インシデント対応総合演習)	実技(インシデント対応総合演習)	修了式(3H)	
	時間	6	6					6	6					6	6	6	6	6	6	6	6		6	6	6	6	6	6	6	6	6	6		
時間小計																																		102

時間合計 306

図表3-3 IT分野カリキュラム(Web アプリプログラマー (Java 言語) 養成科)

訓練実施機関名 北大阪商工会議所

訓練科名	Web アプリプログラマー (Java 言語) 養成科		就職先の職務	Web アプリケーションプログラマー
訓練期間	令和4年9月16日～令和4年12月16日(3か月)			
訓練目標	Web アプリケーション開発を行うためのシステム構築の流れを理解し、Java 言語によるコーディング・開発の一巡を行う事ができる。			
仕上がり像	情報サービス業事業所において Web アプリケーションの開発や基盤構築の基本操作ができる。			
訓練の内容	科目	科目の内容		訓練時間
	入校式等	入所式、オリエンテーション、修了式		
	就職支援	履歴書・職務経歴書の作成方法、面接指導、求人情報の紹介、求人情報の見分け方		15 時間
	安全衛生	心身の健康管理、整理整頓の原則、システム開発現場における安全衛生の事例		3 時間
	システム概論	システムの構成と役割、各構成と製品群、システム要件、各方式の特徴、保守性の高いシステム		6 時間
	要求分析の知識	ヒアリングの要点、モデリング手法と UML、構造化分析手法、オブジェクト指向分析手法、要求仕様書の記載事項		3 時間
	基本設計の知識	方式設計 (ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク)、業務システム設計、インターフェース設計		3 時間
	詳細設計の知識	ソフトウェア設計における基本技法、構造化設計、オブジェクト指向設計、品質特性、作業要点、レビュー手法		3 時間
	プログラミング概論	プログラミング手法、言語の仕様、コーディング規約		12 時間
システムセキュリティ概論	セキュリティと利便性の関係、サイバー攻撃と事件から見る事例、情報セキュリティ対策と情報元の確保		6 時間	

実 技	プログラミング演習	開発環境導入と基本設定、基本文法、ロジック・アルゴリズム演習、ライブラリ、フレームワーク、コーディング規約、詳細設計書からのコード作成、デザインレビュー、コード修正とプログラミング、統合開発環境 (IDE) による動作確認、論理・データの確認、不具合修正 (使用言語 : Java)	75 時間
	データベース演習	ER 図とテーブル設計演習、物理設計演習、SQL サーバーとの接続設定、データベース操作コマンド、テーブル操作コマンド、行操作コマンド、テーブル結合、サブクエリ (使用言語 : SQL)	30 時間
	Web アプリ構築演習	サーバーサイドとクライアントサイドの動作比較、サーバーサイドプログラミング、クライアントサイドプログラミング、インターフェース制作実習、データベース連携、認証サイトの構築、サーバへのファイル転送、サイバー攻撃演習とセキュリティ対策 (使用言語 : Java)	99 時間
	要求分析演習	要求分析、要求定義、インターフェースの仕様検討、セキュリティ機能に関する要求定義	3 時間
	基本設計演習	要求定義に基づくシステム構成の検討、業務システムの設計、インターフェースの設計	3 時間
	詳細設計演習	基本設計書に基づくソフトウェア構造・処理内容の検討、システム構造設計、プログラム仕様設計、物理データベース設計、テスト方針の検討、ソフトウェア詳細設計書作成、詳細設計書の検証	3 時間
	開発演習	テスト計画確認、モジュール開発、単体テスト、結合テスト、システムテスト	57 時間
	訓練時間総合計 321 時間 (学科 51 時間、実技 270 時間)		
主要な機器 設備 (参 考)			



図表3-5 IT分野カリキュラム(IT人材育成科)

訓練実施機関名 株式会社ソコロシステムズ

訓練科名	IT人材育成科		就職先 の 職務	・プログラマー ・ITエンジニア	
訓練期間	令和4年9月16日～令和4年12月 16日(3か月)				
訓練目標	IT分野に関する基礎知識を有し、VBA言語で基本的なプログラミングについて理解し、作業の自動化を目的としたアプリケーションの作成ができる。				
仕上がり像	プログラミングの基本を理解し、自分でアプリケーション開発ができるなど、業務の自動化に貢献できる人材の育成。				
訓練内容	科目	科目の内容		訓練時間	
	学 科	入所式等	入所式、オリエンテーション、修了式		
		就職支援	面接対策指導、履歴書・職務経歴書の書き方、 ジョブ・カード作成支援		9時間
		情報処理1	コンピューターシステム、ネットワーク、VDT作 業と安全衛生		21時間
		情報処理2	プロジェクトマネジメント、サービスマネジメン ト、アルゴリズム、ソフトウェア、データベース		30時間
		RPA概論	RPAの現状と仕組み、導入メリット		6時間
		プログラミングの基礎	VBA言語：定義・演算・処理等、文法		36時間
		情報セキュリティ	情報セキュリティマネジメント、暗号技術の基本		9時間
	実 技	VBA言語プログラミング演習1	データベース設計・管理、SQL、VBA言語を使用 したプログラミング演習		78時間
		VBA言語プログラミング演習2	システム要件定義、システム設計、プログラミン グ応用演習		84時間
		RPA基礎演習	Microsoft Power Platform <sup>[3]</sup> のプログラミング基 礎知識に基づく簡単なアプリケーションの作成		12時間
		RPA実務演習	Microsoft Power Platform <sup>[3]</sup> を使用したプログラ ミング演習、実際の業務で使用できるシステムを 想定したアプリケーション開発演習		21時間
	訓練時間総合計 306時間(学科111時間、実技195時間)				
	主要な機器 設備 (参考)	パソコン・インターネット環境			

図表3-6 日別計画表

訓練コース名: IT人材育成コース

受託希望機関名: 株式会社ソコロシステムズ

1 か 月 目	月	9															10		時間 小計																			
	日	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2																				
	曜	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日																				
訓練 内容	入校式						情報処理 1①	情報処理 1②	情報処理 1③			情報処理 1④	情報処理 2①	情報処理 2②	情報処理 2③	情報処理 2④			情報処理 2⑤	情報処理 2⑥	RPA概論 ①	情報セキュリティ②	RPA概論 ②															
	オリエンテーション							就職支援 ①							就職支援 ②																							
時間						6	3	6				6	6	3	6	6			6	3	3	6	3															102

2 か 月 目	月	10															11		時間 小計																			
	日	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2																				
	曜	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水																				
訓練 内容	プログラミン	プログラミンの基礎 ⑥	プログラミンの基礎 ⑦	プログラミンの基礎 ⑧	プログラミンの基礎 ⑨	プログラミンの基礎 ⑩													プログラミンの基礎 ⑪	プログラミンの基礎 ⑫	プログラミンの基礎 ⑬	プログラミンの基礎 ⑭	プログラミンの基礎 ⑮	プログラミンの基礎 ⑯	プログラミンの基礎 ⑰													
	プログラミン																																					
時間	6	3		6	6				6	6	6	6	6		6	6			6	6																		102

3 か 月 目	月	11															12		時間 小計																			
	日	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2																					
	曜	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土																				
訓練 内容	プログラミン	プログラミンの基礎 ⑱	プログラミンの基礎 ⑲	プログラミンの基礎 ⑳	プログラミンの基礎 ㉑	プログラミンの基礎 ㉒	プログラミンの基礎 ㉓	プログラミンの基礎 ㉔	プログラミンの基礎 ㉕	プログラミンの基礎 ㉖	プログラミンの基礎 ㉗	プログラミンの基礎 ㉘	プログラミンの基礎 ㉙	プログラミンの基礎 ㉚	プログラミンの基礎 ㉛	プログラミンの基礎 ㉜	プログラミンの基礎 ㉝	プログラミンの基礎 ㉞	プログラミンの基礎 ㉟	プログラミンの基礎 ㊱	プログラミンの基礎 ㊲	プログラミンの基礎 ㊳	プログラミンの基礎 ㊴	プログラミンの基礎 ㊵	プログラミンの基礎 ㊶													
	プログラミン																																					
時間	6	6			6	6			6	6				6	6			6	6																			102

時間合計 306

図表3-7 IT分野カリキュラム(IT導入リーダー育成科)

訓練実施機関名 有限会社エヌティ・クリエイト

訓練科名	IT導入リーダー育成科		就職先の職務	社内エンジニア
訓練期間	令和4年9月16日～ 令和4年12月15日(3か月)			
訓練目標	DXの基礎知識を身につけ、組織のDX化や業務の効率化を図るために必要なIT(経営全般の知識、ITツールの活用方法)活用により、様々な業務改善や生産性向上のみならず、顧客価値の創造のための戦略構築ができるようになる。			
仕上がり像	ITエンジニアに必要なIT・DXの基礎知識に加え、経営戦略、システム戦略、システム開発、プロジェクトマネジメント等のIT経営導入と管理のための知識とスキル、そして、業務の効率化のためのGoogle等のITツール活用のためのスキルを学び、社内エンジニアとしてDX推進プロジェクトのリーダーの知識とスキルをもつ。			
訓練内容	科目	科目の内容	訓練時間	
	入所式等	入所式・オリエンテーション、修了式		
	就職支援	興味・能力・適性・価値観・職務内容などに関する自己理解、受講生が就職を希望する地域の雇用情勢と求人検索方法、職務経歴書を中心とした応募書類作成方法とその注意点、志望動機・自己PRの作成方法、ビジネスマナー、実践的な面接方法、就職活動計画	27時間	
	安全衛生	VDT(Visual Display Terminals)作業の留意点、5S(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)による安全作業を行うための方法	1時間	
	DX基礎知識	DXの基礎知識、DX人材の分類と役割、DXの理想の姿、デジタルファースト、ビジネスモデル図、開発手法、デジタルライゼーション、事例紹介、アジャイル開発	15時間	
	業務プロセス設計基礎知識	ビジネスアナリスト、ビジネスプロセスマネジメント、要求管理とプロセス変革、理想のプロセスのデザイン、先行各社の事例	12時間	
	DXツール概要	DXツールの事例紹介	3時間	

	UX デザイン概要	ユーザビリティ評価、プロトタイピング、構造化シナリオ、ユーザー調査、カスタマージャーニーマップ、ユーザーモデリング、組織導入	15 時間
	AI 基礎知識	AI システム、AI モデルの学習、PoC、AI モデルに使用するアルゴリズム(教師有学習、教師無学習、アンサンブル学習、ディープラーニング)	15 時間
	IT テクノロジー概論	基礎理論、アルゴリズムとプログラミング、コンピュータ構成要素、システム構成要素、ソフトウェア、ハードウェア、ヒューマンインターフェース、マルチメディア、データベース、ネットワーク、情報セキュリティ、システム開発、ソフトウェア開発手法	66 時間
	マネジメント概論	プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査	18 時間
	IT ストラテジ概論	システム戦略、システム企画、経営戦略マネジメント、技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ、企業活動、法務	36 時間
実 技	IT ツール活用実習	Google Workspace <sup>[5]</sup> 、Chatwork <sup>[6]</sup> の活用実習	5 時間
	情報処理技術演習	情報セキュリティ、ソフトウェア・ハードウェア、データベース、ネットワーク、ソフトウェア設計、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム戦略、経営戦略・企業と法務、データ構造とアルゴリズム、プログラミング	84 時間
	DX 推進計画実習	実際の企業を対象とした DX 推進のための業務改善計画の立案と提案(アンケート調査、ヒアリング、課題抽出、優先順位付け、改善案等)によるプレゼンテーションと講師による講評	24 時間
訓練時間総合計 321 時間(学科 208 時間、実技 113 時間)			
主要な機器 設備 (参 考)	パソコン一式、インターネット利用環境		





図表 3-9 IT 分野カリキュラム (Web デザイナー養成科)

訓練実施機関名 キャリア教育プラザ株式会社

訓練科名	Web デザイナー養成科		就職先 の 職 務	Web デザイナー UI デザイナー マーケティングデザイナー	
訓練期間	令和 4 年 9 月 16 日～令和 4 年 12 月 16 日 (3 か月)				
訓練目標	Web 制作およびその関連サービスを提供・運営している企業において、Web デザイン・コンテンツ制作やマーケティングの作業ができる。				
仕上がり像	Web デザイン・コンテンツ制作やマーケティングに必要な知識、実践的スキルを習得する。				
訓練 の 内 容	科 目	科 目 の 内 容		訓練時間	
	学 科	入所式等	入所式、オリエンテーション、修了式		
		就職支援	就職活動の心構え、就職活動の方法、ジョブ・カード作成支援、履歴書・職務経歴書の書き方、面接指導		18 時間
		安全衛生	VDT 作業の留意点、安全衛生の必要性		3 時間
		色彩理論	色の表示、色彩調和、ビジュアルデザインと色彩、プロダクトデザインと色彩		3 時間
		印刷製版知識	プリプレス概論、カラープロセス、CTP とフィルム出力、印刷、品質管理、後加工、紙面の設計、編集校正知識		3 時間
		Web 概論	Web サイトの構築、ディレクション、Web マーケティング		6 時間
	実	パソコン基礎	コンピュータ概論、マウス操作、OS 操作、タイピング、入力、ソフトの操作と活用 (Microsoft Word[3]、Microsoft Excel [3])		15 時間
		イラストクリエイト基礎演習	デザインやイラストレーションに必要なクリエイト力の習得、テキストの入力と編集、オブジェクトの編集、パスの描画と編集、カラー設定		18 時間
		イラストクリエイト応用演習	グラデーション・パターンの適用、グラフィックの作成、ブラシの適用、レイヤーの活用、イラストレーション制作演習		24 時間

技	画像編集基礎演習	撮影の基本と写真の活用方法、テキストの入力と編集、パスとシェイプ、ペイント、カラーモードと色調補正、画像の入出力	12 時間
	画像編集応用演習	画像修整の手順、画像合成(レイヤー、マスク、フィルタ、レイヤースタイル、描画モード)、画像編集演習	18 時間
	HTML 基礎演習	HTML/CSS の基本と構文、Web ページの制作	30 時間
	Web デザイン演習	WordPress <sup>[7]</sup> のホームページ制作(サイト構築、テンプレート、ブログサイトのカスタマイズ、固定ページ機能、カスタム投稿、プラグインの挿入など)、バナー等制作、SEO 対策	30 時間
	Web プログラミング演習	JavaScript の基本(文法、変数、演算子、配列、条件分岐、繰り返し制御、関数、HTML との連携)、PHP の基本(構文、演算子、制御構文)	54 時間
	Web ランディングページ演習	広告・商品キャッチコピー・文章作成、ランディングページ制作、集客・広告配信方法、Web プロモーション広告、アクセス解析のデータをもとにした効果検証	24 時間
	Web デザイン制作実習	制作工程管理、Web コンテンツ等の制作	48 時間
	訓練時間総合計 306 時間(学科 33 時間、実技 273 時間)		
主要な機器 設備 (参 考)	<p>【当社】ビデオカメラ、講師・配信用 PC、訓練生リモート用 PC、モニター、インターネット環境、ホワイトボード等</p> <p>【訓練生】操作用 PC(当社無料貸出)、ZOOM<sup>[4]</sup>用 PC またはタブレット、インターネット環境(訓練生で準備)</p>		



## 第2節 受講者募集

### 2-1 全国の求職者に向けた広報

検証訓練の各コースは、全国の求職者を対象としているため、各実施施設が作成した広報ツールを機構本部が取りまとめ、厚生労働省を通じて全国のハローワークへの当該コースの情報提供を行った。また、機構本部から実施施設以外の全国の職業能力開発促進センターへ情報提供を行い、各センターのホームページに掲載するなどして求職者に対して広く情報提供を行った。具体的には機構本部が次のように進めて行った。

- (1) 実施施設は、訓練実施機関の協力のもと、各訓練コースガイド(受講申込書等含む)(以下「訓練コースガイド等」という。)を作成する。
- (2) 機構本部は、実施施設の訓練コースガイド等を集約。
- (3) 厚生労働省は、全国のハローワークへ訓練コースガイド等の情報を提供する。
- (4) ハローワークは、訓練コースガイド等を活用し求職者へ周知する。
- (5) 機構本部は、訓練コースガイド等を実施施設以外の全国の職業能力開発促進センターへ情報提供する。
- (6) 職業能力開発促進センターは、ホームページ等で求職者へ周知する。
- (7) ハローワークは、求職者から提出された受講申込書等を訓練コースごとに当該実施施設へ郵送する。

図表3-11(1)～(2)に訓練コースガイドを示す。実際の広報では、図表3-11(1)～(2)の訓練コースガイドに各訓練コースのカリキュラム及び受講申込書等をセットにして活用した。

### 2-2 実施施設等における広報

実施施設等が行った広報について下記に示す。ただし、(3)～(5)は一部の実施施設のみで取り組まれたものである。


- (1) 実施施設の所在する労働局、ハローワークへの周知
- (2) 実施施設及び訓練実施機関のホームページへの掲載
- (3) 実施施設の関係機関への独自リーフレットの配付
- (4) 実施施設によるプレス発表
- (5) 実施施設による YouTube<sup>[5]</sup>を活用した訓練コースの説明
- (6) 訓練実施機関による SNS(ブログ)による広報

図表3-11(1) 訓練コースガイド

求職者の皆さまへ

9月16日(金)開講

フルオンライン訓練  
(通所なし) がスタートします!!



## 全国の求職者を対象とした オンラインによる職業訓練(IT分野) -受講者募集のご案内-


全国の求職者を対象としたオンラインによる職業訓練(IT分野)とは

全国の求職者を対象としたオンラインによる職業訓練とは、就職を希望する方等を対象に、IT分野に関する知識・技術を身に付け、就職へ向けた支援を行うための職業訓練です。本訓練は、訓練のすべてをオンラインによる同時双方向型の配信形式で行うため、日本全国どこに居住されている方でも受講可能となっております。


訓練について

訓練期間	令和4年9月16日(金)から3か月間
訓練時間	原則として土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日で、おおむね午前9時から午後4時30分までの間です。
募集期間	令和4年8月8日(月)～令和4年8月23日(火) ※募集期間を過ぎてからの申込み及びコースの変更はお受けできません。
応募資格	ご自身の住所地を管轄するハローワーク(公共職業安定所)に求職申込みをしている方で、オンライン訓練を受講可能な機器及びインターネット環境が整っている方(一部無償で機器等の貸し出しを行うコースもありますので、詳細は各コースガイドをご覧ください。)
応募方法	住所地を管轄するハローワークにて職業相談等を行い、「受講申込書」、「訓練コースの受講に当たっての同意書」、「面接補助シート」に必要事項を記入の上、受講を希望するご本人がハローワークにお申込みください。 ※ご提出いただいた申込書等は返却いたしませんので、ご了承ください。
選考日	原則、令和4年8月31日(水)、9月1日(木)、9月2日(金)のいずれか(受講希望者が多数の場合は選考日が追加される場合があります。)で、ポリテクセンターが指定する日時を申込書に記載していただいたメールアドレス等に8月29日までに連絡します。
選考方法	オンラインによる選考(面接及び口頭試問等)を行います。 ※オンライン選考試験を受験可能な機器及びインターネット環境が必要です。
選考結果	受講を希望するご本人あてに郵送します。
受講料	受講料無料。ただし、教科書代、通信費等は自己負担となります。
必要設備等	訓練を受講するために、パソコン等の機器や通信環境、アプリケーションなどの準備が必要になる訓練があります。 ※各実施機関で条件が異なりますので、事前に必ずご確認ください。

図表3-11(2) 図表3-11(1)の裏面



## オンラインによる職業訓練(IT分野)一覧



No	訓練科名	訓練実施機関名	訓練コース番号	訓練期間	訓練時間	定員	頁
1	サイバーセキュリティマネジメント科	ヒートウェブ株式会社	5-04-11-136-20-0534	令和4年 9月16日～ 12月16日	9:00～ 15:50	20名	P. 3
2	Webアプリプログラマー (Java 言語) 養成科	北大阪商工会議所	5-04-27-136-20-0274	令和4年 9月16日～ 12月16日	9:30～ 16:10	20名	P. 9
3	IT人材育成科	株式会社 ソコロシステムズ	5-04-32-136-20-0113	令和4年 9月16日～ 12月16日	9:30～ 16:30	20名	P. 15
4	IT導入リーダー育成科	有限会社 エヌティ・クリエイト	5-04-33-136-20-0175	令和4年 9月16日～ 12月15日	9:30～ 16:00	20名	P. 21
5	Webデザイナー養成科	キャリア教育プラザ 株式会社	5-04-43-136-20-0168	令和4年 9月16日～ 12月16日	9:30～ 16:10	20名	P. 27

### その他

・「全国の求職者を対象としたオンラインによる職業訓練」は今回初めて実施するものです。今後の募集については未定です(年内の募集はありません)。

・応募者が定員に満たないコースは、訓練の実施を中止する場合があります。

・合否結果以外の選考に関する問合せにはお答えできませんので、ご了承ください。

[訓練コースの詳細については、各コースガイド\(P.3～28\)をご覧ください。](#)

### 問い合わせ先

質問項目	問い合わせ先
訓練概要・カリキュラム(就職支援も含む)の内容について	各コースの訓練実施機関(P.4～P.28)
全国の求職者を対象としたオンラインによる職業訓練(IT分野)全般について	各コースのお問い合わせ先(P.4～P.28)
雇用保険の失業給付(基本手当・受講手当)について	住所地を管轄するハローワークへ
職業訓練受講給付金について	



### 2-3 募集期間

実施施設は、令和4年8月8日(月)～8月23日(火)の間に受講者募集を行った。全国から受講者を募集するため、多数の応募を見込んでいたものの、募集期間が2週間程度と通常の約半分となったことに加え、お盆の時期と重なったことなどから、応募者数に大きなばらつきが出た。最終的な応募状況については、各労働局及びハローワークの協力を得て、図表3-12の結果となった。なお、訓練コースに定員割れが発生した場合、通常は追加募集や募集延長を計画するが、今回の検証訓練は単年度の計画であるため、スケジュール的に募集から選考までタイトであること、全国規模での募集期間の延長等は、書類等の送付に時間がかかることなどの理由から、全国規模での延長はせず、可能な範囲で各都道府県での対応とした。

図表3-12 各訓練コースの応募状況

	サイバーセキュリティマネジメント科	Webアプリプログラマー (Java言語) 養成科	IT人材育成科	IT導入リーダー養成科	Webデザイナー養成科	総計
実施機関所在地	東京都	大阪府	島根県	岡山県	熊本県	
訓練期間	9月16日～12月16日			9月16日～12月15日	9月16日～12月16日	
定員	20人	20人	20人	20人	20人	100人
応募者数	14人	29人	10人	9人	115人	177人
応募倍率	0.7倍	1.45倍	0.5倍	0.45倍	5.75倍	1.77倍
平均年齢	37.9歳	34.5歳	42.9歳	41.4歳	36.4歳	36.8歳
応募地域	9都府県	17都道府県	8道県	8都県	36都道府県	41都道府県

公共職業訓練は併願(同時に複数のコースに受講申し込みを行うこと。)が可能であるため、実質の応募者数は相当数減りすることが危惧されたが、併願の申込者は3名にとどまった。

### 第3節 選考

一般的な求職者向けの訓練における選考方法は、面接と筆記試験であるが、フルオンライン訓練の場合は、選考についてもオンラインで実施する必要があるが、筆記試験をオンラインで実施することは難しいため、口頭試問に置き換えて実施することを原則とした。実施施設からのヒアリング調査結果を基に選考準備から選考までの対応を以下のとおりまとめた。



### 3-1 選考準備

#### (1) 選考基準

選考基準は、実施施設が行っている施設内離職者訓練の選考基準を参考に各施設において作成した。

#### (2) 通信テスト(選考日前)

実施施設は、オンラインによる選考試験を実施するために必要となる Web 会議等を行うための通信ソフト(以下「オンライン用ツール」という。)を応募者にあらかじめ提示し、ほとんどの施設は選考を実施する前に接続テストを行った。

ある実施施設では、選考日前までに事前にオンライン用ツールのダウンロード方法やそのツールの簡単な使い方等を受講申込書に記載されたメールアドレス宛に送信し、事前に応募者各自に準備させた。その際、記載されたメールアドレスが正確なものであるかを確認するため、一度、確認メールのやり取りを行ったうえで関係書類を送信するなど、個人情報等の漏洩には細心の注意を払った。

#### (3) 選考当日の進行

実施施設と訓練実施機関が協力し選考を進めた。応募者は各自に指定された選考開始時間の 15 分程度前からオンライン用ツールにログインし、選考開始時間まで待機した。選考担当者は、待機している応募者を順次オンライン上の会議室に招き入れ選考を行った。

指定された選考開始時刻の 15 分前からログインさせたことについては、通信障害等のトラブルの発生を考慮し、接続テストも兼ねて選考時刻までそのまま待機させることでスムーズな運営がされていた。

#### (4) 面接、口頭試問の問題準備

面接は約 10 分～20 分、口頭試問(内容は主に専門分野)は約 10 分の内容量となるよう問題を準備した。特に、口頭試問の問題の準備にあっては、機構で作成したサンプル問題や機構で実施している施設内離職者訓練の選考時に使用している筆記試験の問題を参考に実施施設が作成し、訓練実施機関と共有した。

### 3-2 選考方法

本検証訓練で実施した選考方法は 2 つに分類できる。いずれの方法においてもトラブルなく進められている。また、合否発表に関する応募者からのクレームも生じなかった。

なお、併願申込者については、申し込みを行ったすべてのコースの選考試験を受験してもらうこととした。

#### (1) 面接+口頭試問

オンラインによる面接終了後、画面上に提示した問題について、応募者が口頭で回答する方法で口頭試問を行った。問題の提示方法は、応募者のパソコン画面で問題文が確認できるようオンライン用ツールの機能を用いて画面を共有し、応募者は時間内に口頭で回答するもので、一定の時間が経過すると画面から問題文を消去した。

また、口頭試問の問題文の提示にLMS(Learning Management System)を活用した実施施設もあり、問題文を提示するために口頭試問を開始する直前にID及びパスワードを伝え、応募者はそれを入力することで問題文を入手し、その場で回答するものである。

なお、これらの方法を4つの実施施設が採用した。

## (2)面接+口頭試問+小論文

上記の方法と基本的には同様であるが、面接+口頭試問を一旦終了した後に小論文を追加実施したものである。これは、今回、筆記試験を口頭試問に置き換えて実施することを基本としていたが、多数の応募があった場合を想定し、より精密な選考を行うために小論文も追加したものである。小論文は、口頭試問の終了時に提示したID、パスワードを応募者が訓練実施機関のホームページに入力し、記述試験のテーマを入手し、1時間以内に回答するものである。

なお、この方法を1つの実施施設が採用した。

### 3-3 選考体制

いずれの訓練コースも、2～3班に分かれて選考を実施している。1人の応募者に対し、選考担当者は2～3人となるよう班を構成した。基本的に選考担当者として訓練実施機関の職員の協力を得たが、1つの実施施設では施設職員のみで構成していた。

### 3-4 選考時の通信設備

オンラインによる選考試験を行うために使用した通信設備は、実施施設及び訓練実施機関の通信設備を使用した。例えば、訓練実施機関の通信設備を使用した場合は、選考担当者は訓練実施機関に集合し訓練実施機関と応募者間でのオンラインによる選考になる。それぞれの通信設備を使用した場合は、実施施設と訓練実施機関の選考担当者と応募者がそれぞれオンラインで参加することになる。今回、実施施設の通信設備を使用したコースは1コースあり、訓練実施機関の通信設備を使用したコースが3コース、実施施設と訓練実施機関それぞれの通信設備を使用(お互いにオンラインで参加)したコースは1コースであった。

実施施設の通信設備を使用した1コースは、今後の訓練を想定し訓練実施機関で使用しているオンライン用ツールを使用している。また、実施施設と訓練実施機関のそれぞれの通信設備を使用した1コースは、両施設間が遠く移動にかなりの時間を要す

るためオンラインで参加となったが、訓練実施機関で使用しているオンライン用ツールを使用し、オンラインでのトラブルを避けるため、選考日までに両施設間でオンラインによる選考のシミュレーション(応募者等の役割を分担して選考の模擬)を数回実施している。

このように選考試験を開講後の訓練実施の接続テストも兼ねて行う場合には、訓練実施機関が使用しているオンライン用ツールを活用することは効果的だといえる。

以上、これら個々の選考方法及び選考日、合格者数等をまとめると次の図表3-13になる。なお、図表の表示に係る各訓練コースの標記を「サイバーセキュリティマネジメント科」(以下「セキュリティ科」という)、「Web アプリプログラマー(Java 言語)養成科」(以下「Web アプリ科」という)、「IT 人材育成科」(以下「IT 人材科」という)、「IT 導入リーダー育成科」(以下「IT 導入科」という)、「Web デザイナー養成科」(以下「Web デザイナー科」という)とする。

図表3-13 選考方法等

	セキュリティ科	Web アプリ科	IT 人材科	IT 導入科	Web デザイナー科
応募者数	14 人	29 人	10 人	9 人	115 人
選考人数	14 人	28 人	10 人	9 人	109 人
選考日	令和4年8月31日	令和4年9月2日 令和4年9月5日	令和4年8月31日 令和4年9月2日 (追加募集分)	令和4年8月31日	令和4年8月31日 令和4年9月1日
合格者数	13 人	20 人	10 人	9 人	20 人
選考結果通知日	令和4年9月6日	令和4年9月7日	令和4年9月6日	令和4年9月8日	令和4年9月8日
選考班分け	2 班	3 班	3 班	2 班	2 班
1 班あたりの体制	2 人 (1 人は訓練実施機関)	3 人 (1 人は訓練実施機関)	2 人 (1 人は訓練実施機関)	2 人	2 人 (1 人は訓練実施機関)
通信設備	訓練実施機関	訓練実施機関	実施施設と 訓練実施機関	実施施設	訓練実施機関

## 第4節 検証訓練開始時のアンケート・ヒアリング調査結果

### 4-1 受講者へのアンケート調査結果

各訓練コースの受講者の受講を希望した理由等を調査するため、フルオンライン訓練開始時にアンケート調査を実施した。調査方法は、職業能力開発総合大学校基盤整備センターから実施施設へメールでアンケート用紙を送付し、実施施設が訓練開始時に各受講者に直接メールで依頼、または訓練実施機関の協力のもとアンケート調査を実施した。全受講者は79人で、その内回答者は69人(87.3%)であった。

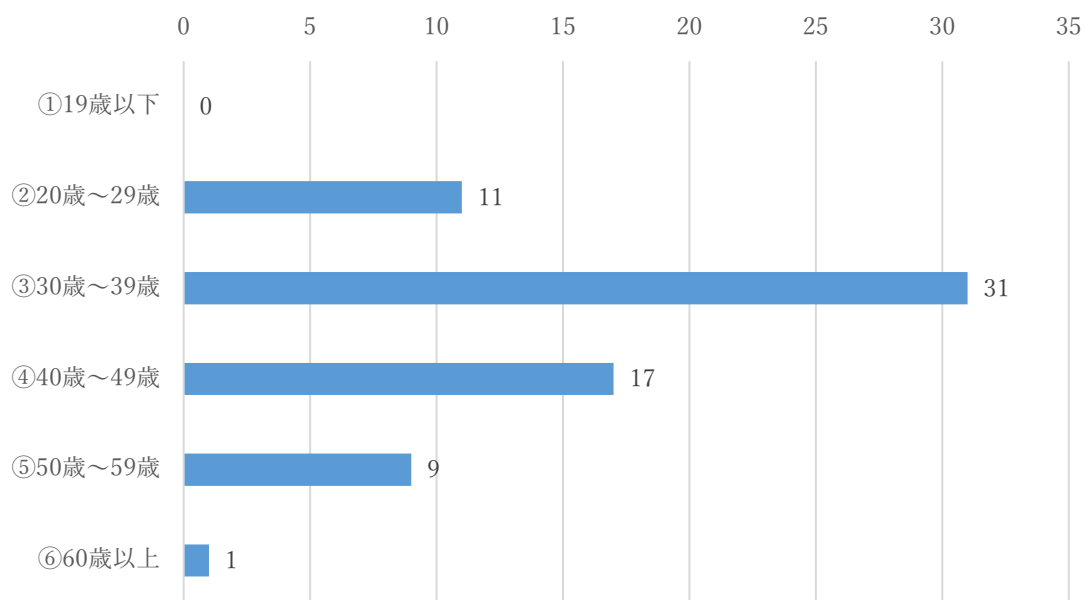
主な質問項目は、「受講者年齢層」、「訓練コースを初めて知った経緯」、「受講者が受講を決断した理由」、「応募から訓練開始時までの間で気になったこと(不安等)」、「オンライン訓練を受講するに当たりどのように感じるか」等であり、結果を以下に示す。

#### (1) 受講者年齢層

図表3-14に回答者の「受講者年齢層」を示す。30歳～39歳が一番多く、次いで40歳～49歳が多い。図表3-15～図表3-19は訓練コース別受講者年齢層を示す。訓練コース名に「Web」と付いているコースは比較的年齢層が若い傾向がある。

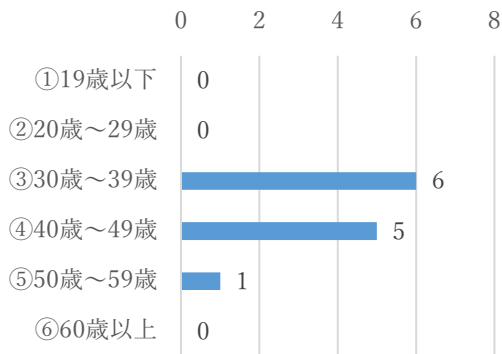
図表3-14 訓練コース全体の受講者年齢層(全体)

(受講者71人中69人回答)



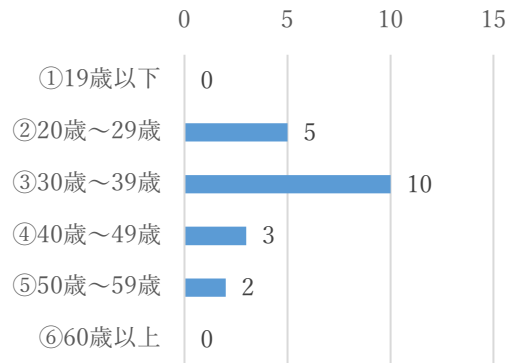
図表3-15 「セキュリティ科」の受講者年齢層

(受講者13人中12人回答)



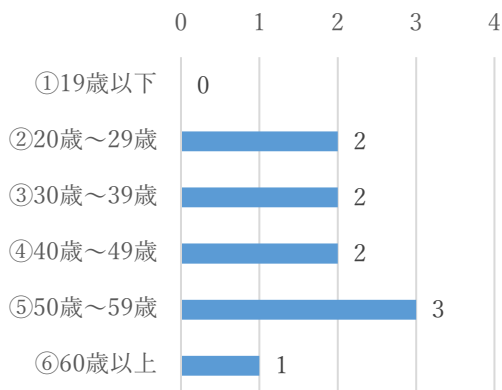
図表3-16 「Web アプリ科」の受講者年齢層

(受講者20人中20人回答)



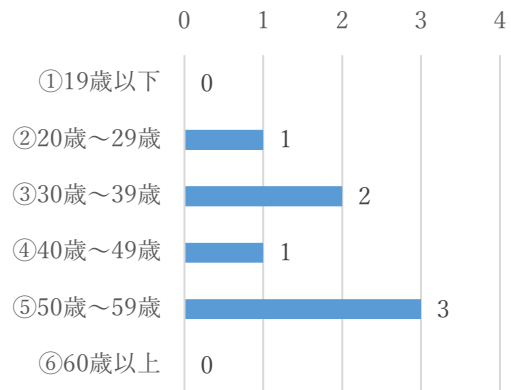
図表3-17 「IT人材科」の受講者年齢層

(受講者10人中10人回答)



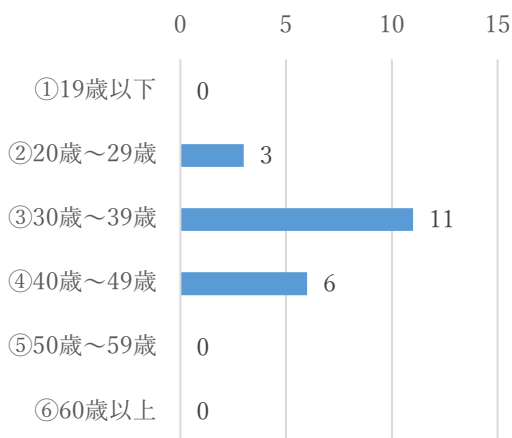
図表3-18 「IT導入科」の受講者年齢層

(受講者8人中7人回答)



図表3-19 「Webデザイナー科」の受講者年齢層

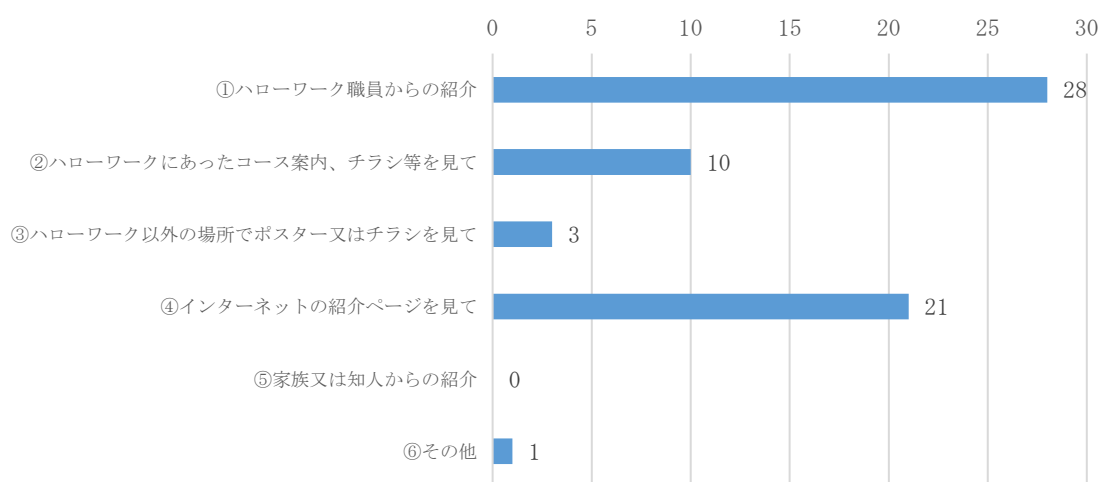
(受講者20人20人回答)



(2) 訓練コースを初めて知った経緯

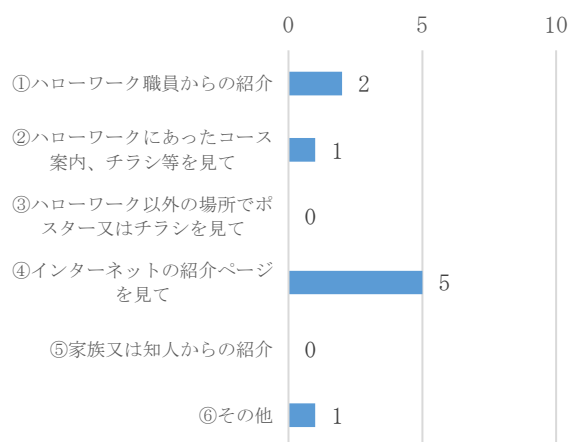
図表 3-20 に受講者全体の「訓練コースを初めて知った経緯」を示す。「①ハローワーク職員からの紹介」が一番多く、次いで「④インターネットの紹介ページを見て」となっており、受講者は自ら実施施設等のホームページを見て知った方も多かったようだ。なお、図表 3-21～図表 3-25 は訓練コース別受講者の訓練コースを初めて知った経緯を示す。

図表 3-20 訓練コースを初めて知った経緯(全体)  
(受講者 71 人中 63 人回答)



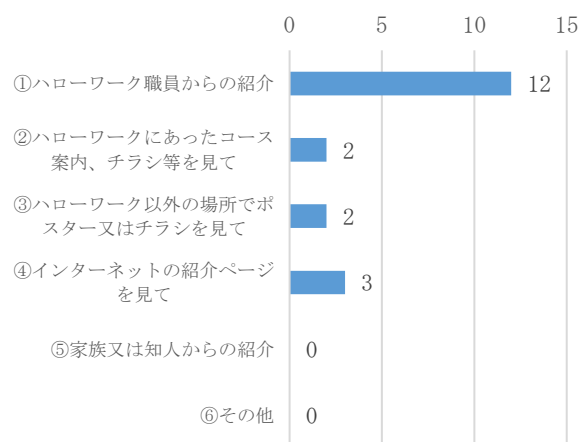
※その他 : Twitter

図表 3-21 「セキュリティ科」を知った経緯  
(受講者 13 人中 9 人回答)



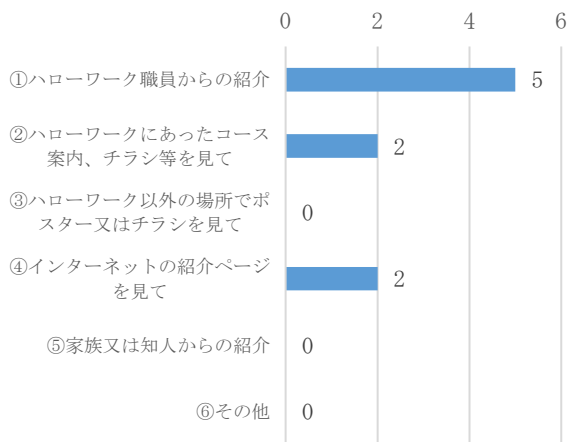
※その他 : Twitter

図表 3-22 「Web アプリ科」を知った経緯  
(受講者 20 人中 19 人回答)



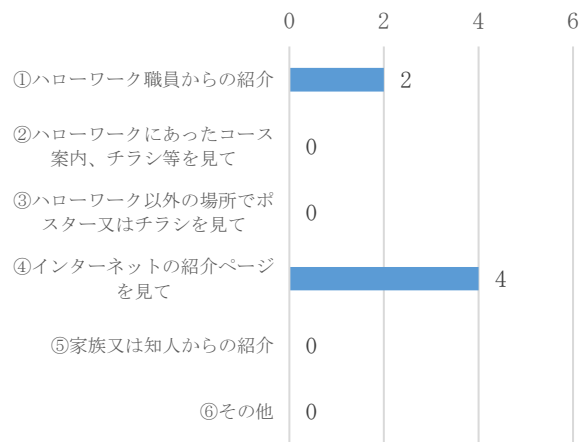
図表3-23 「IT人材科」を知った経緯

(受講者10人中9人回答)



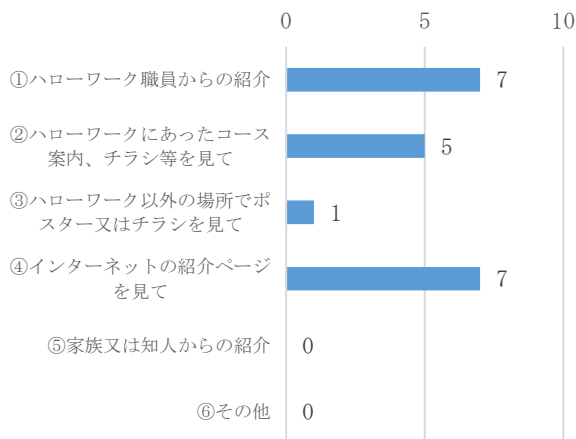
図表3-24 「IT導入科」を知った経緯

(受講者8人中6人回答)



図表3-25 「Webデザイナー科」を知った経緯

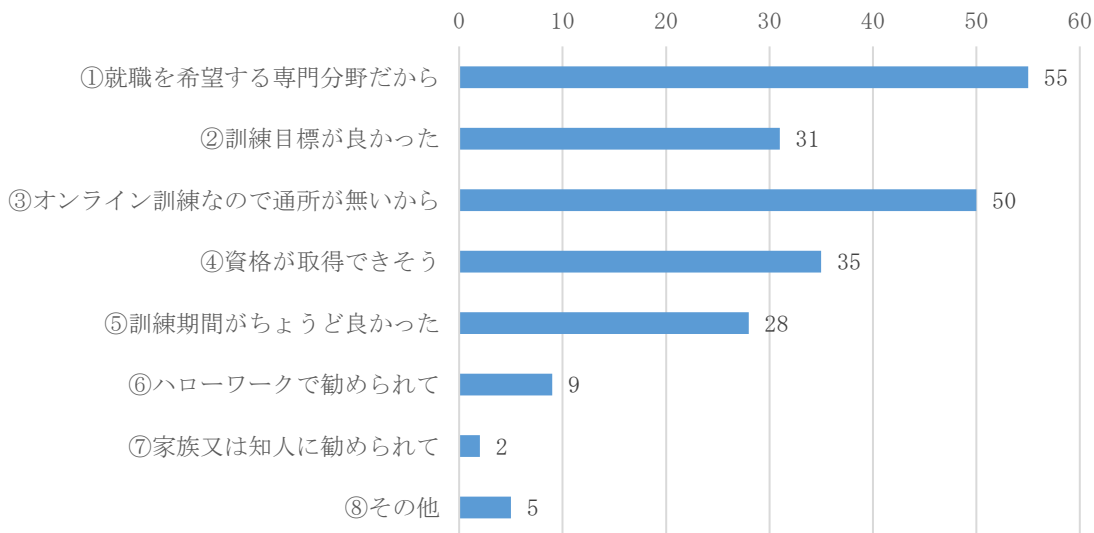
(受講者20人中20人回答)



### (3) 受講者が受講を決断した理由

図表3-26に受講者全体の「受講者が受講を決断した理由」を示す。理由として、「①就職を希望する専門分野だから」が一番多く、次いで「③オンライン訓練なので通所が無いから」の順になっている。なお、図表3-27から図表3-31は訓練コース別の受講決断理由を示す。

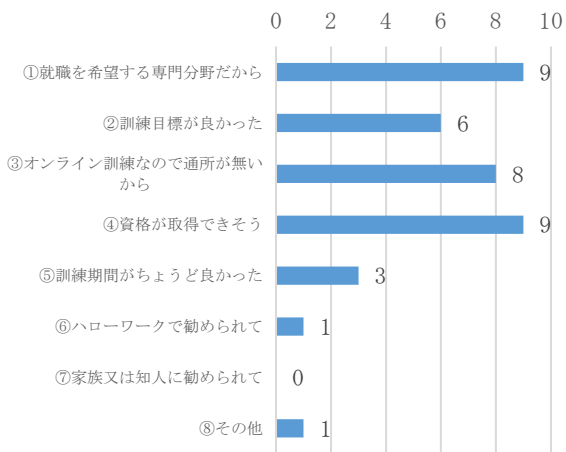
図表 3-26 受講決断理由(全体)(複数回答)



※その他：サイバーセキュリティ分野での就職、興味ある分野、就職活動に取り組める、近くに Web 系が無い、デザイン能力を加え広い職種での就職

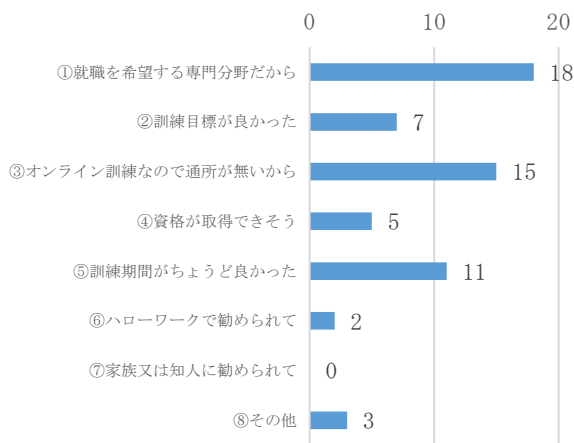
図表 3-27 「セキュリティ科」の受講決断理由 図表 3-28 「Web アプリ科」の受講決断理由

(複数回答)



※その他：サイバーセキュリティ分野での就職

(複数回答)

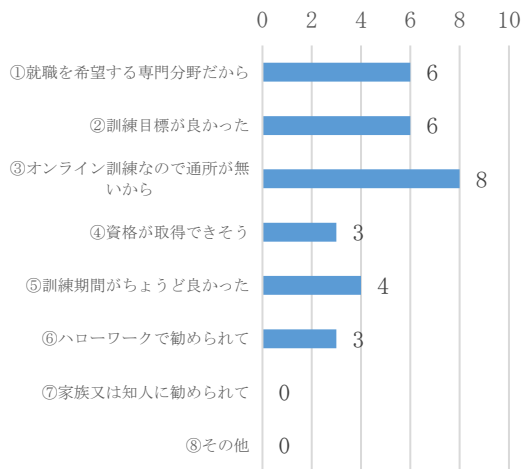


※その他：興味ある分野、就職活動に取り組める、近くに Web 系が無い



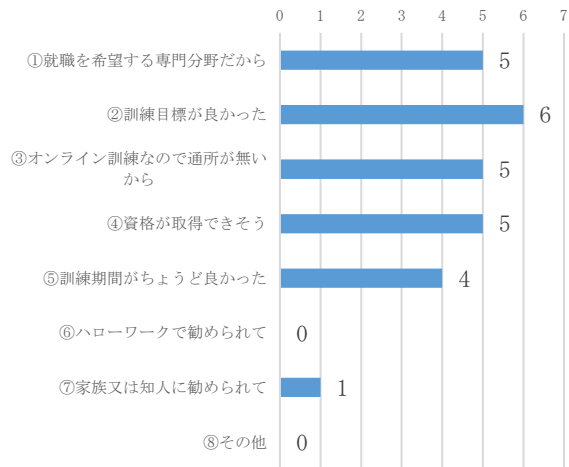
図表3-29 「IT人材科」の受講決断理由

(複数回答)



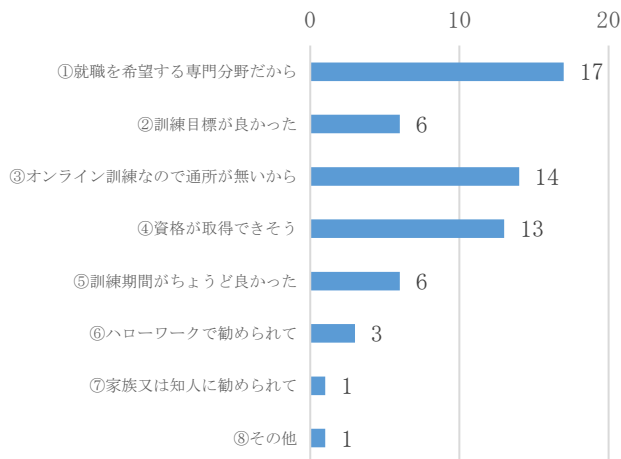
図表3-30 「IT導入科」の受講決断理由

(複数回答)



図表3-31 「Webデザイナー科」の受講決断理由

(複数回答)

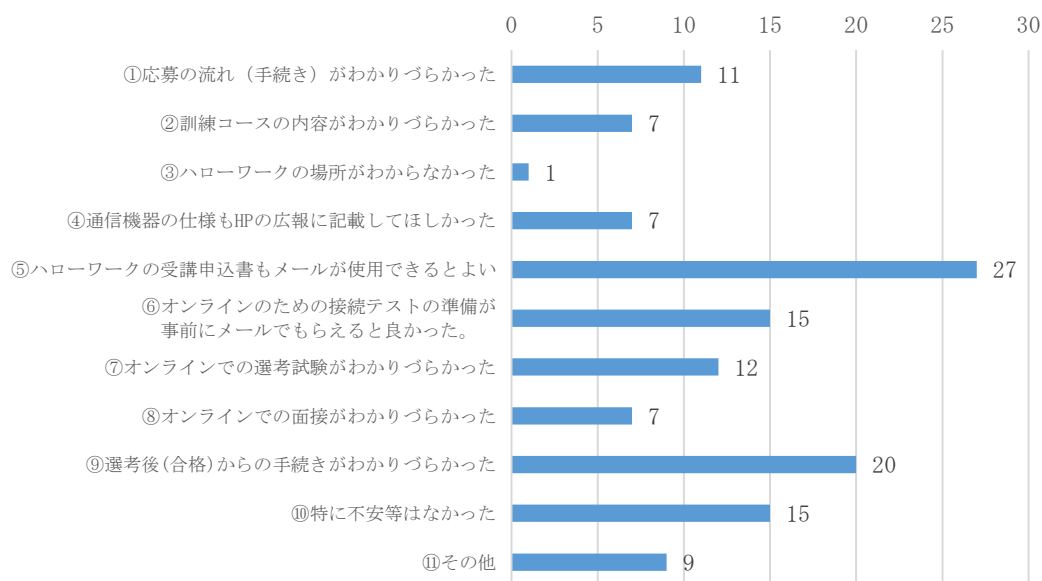


※その他：デザイン能力を加え広い職種での就職

#### (4) 応募から訓練開始時までの間で気になったこと(不安等)

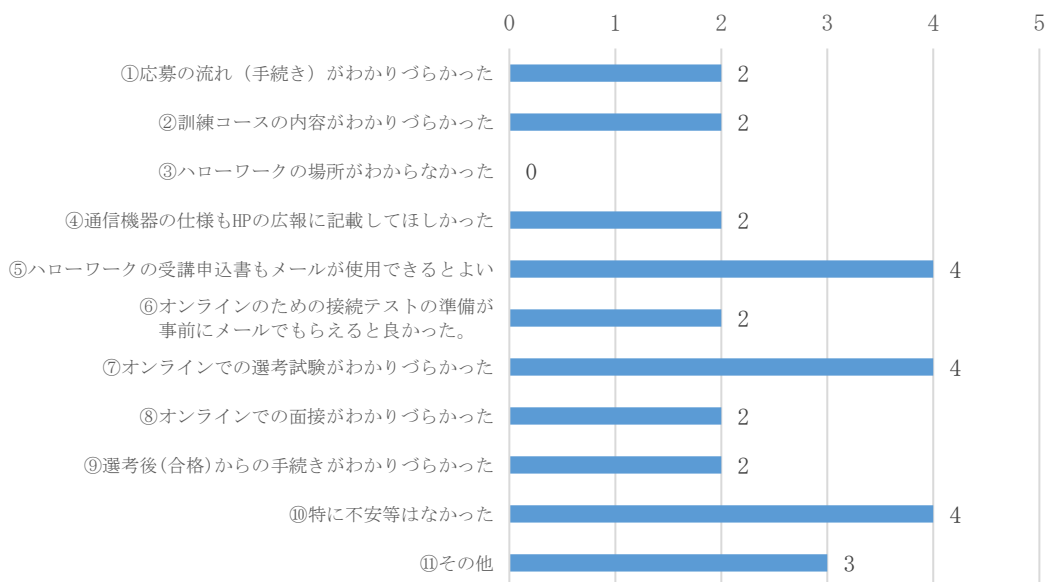
図表3-32に受講者全体で「応募から訓練が始まるまでの間で気になったこと(不安等)」について示す。受講者が気になったこととして、「⑤ハローワークの受講申込書もメールが使用できるとよい」が一番多く、次いで「⑨選考後(合格)からの手続きがわかりづらかった」の順になっている。3番目に「⑥オンラインのための接続テストの準備が事前にメールでもらえると良かった」と「⑩特に不安等はなかった」が同列となっている。なお、図表3-33から図表3-37は訓練コース別に「受講者が気になったこと(不安等)」を示す。

図表3-32 気になったこと(不安等)(全体)(複数回答)



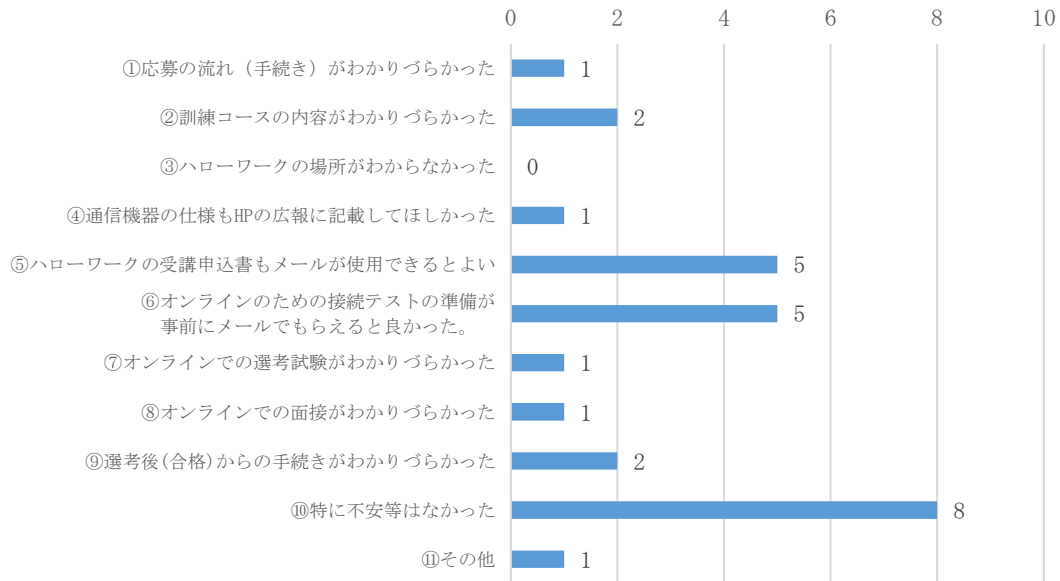
※その他：連絡や配布物の送達が遅い、必要なソフトの事前案内、迷惑メールに入った、選考試験の記載無、HW提出書類で認識合わず、教材の取寄せ期間不足、合格から入所までの期間が短い、機材準備不安

図表3-33 「セキュリティ科」の受講者が気になったこと (複数回答)



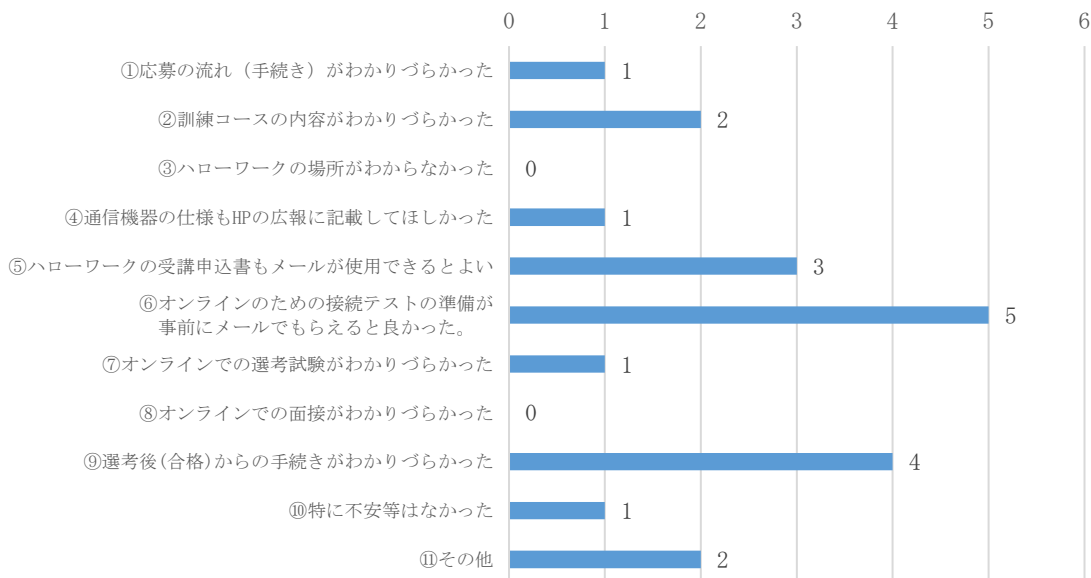
※その他：連絡や配布物の送達が遅い

図表3-34 「Web アプリ科」の受講者が気になったこと（複数回答）



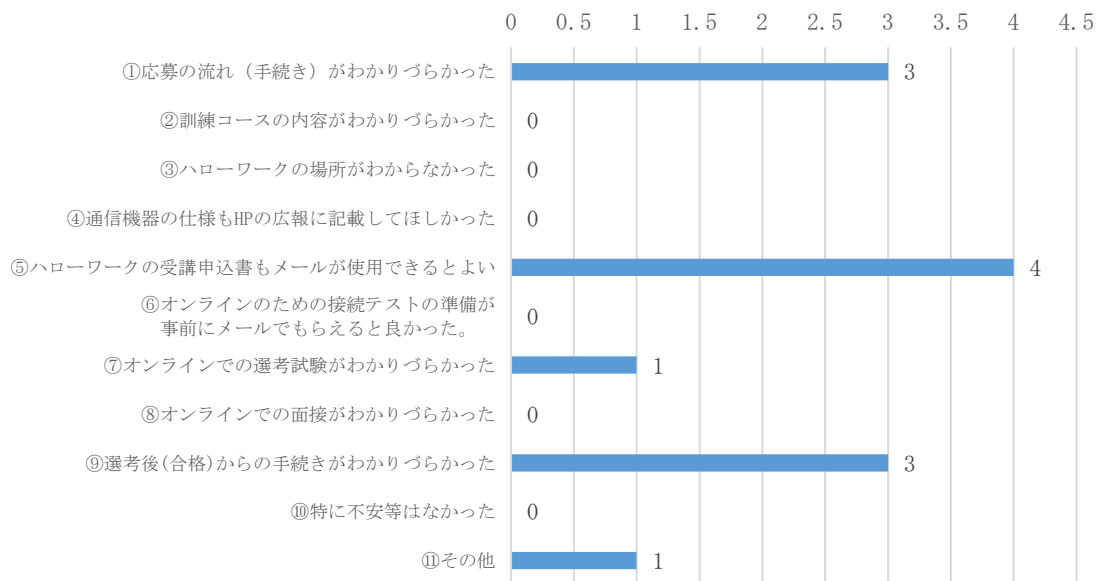
※その他：必要なソフトの事前案内

図表3-35 「IT人材科」の受講者が気になったこと（複数回答）



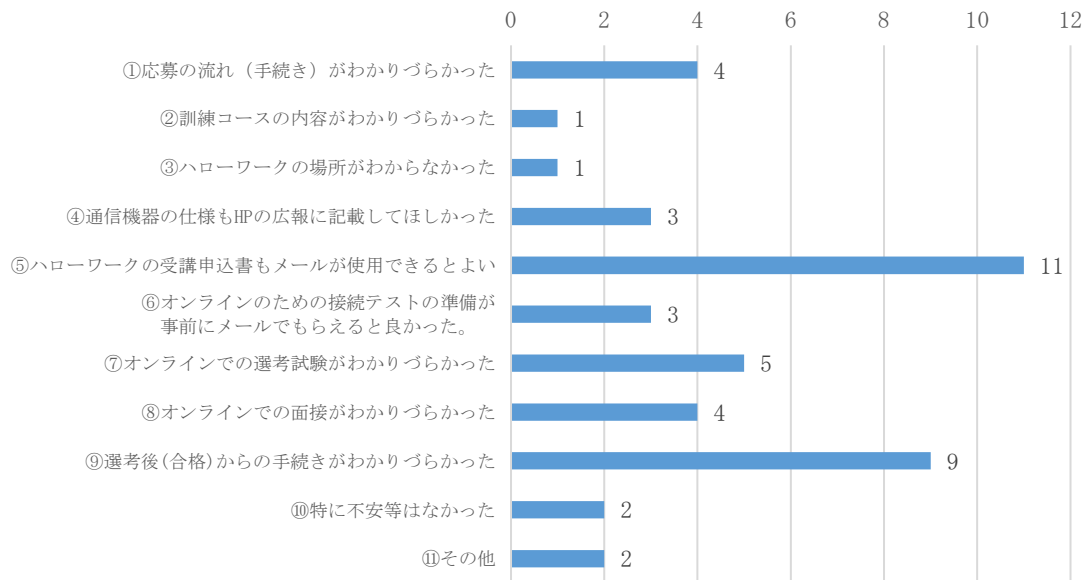
※その他：迷惑メールに入った。選考試験の記載無。HW提出書類で認識合わず

図表 3-36 「IT 導入科」の受講者が気になったこと（複数回答）



※その他：教材の取寄せ期間不足

図表 3-37 「Web デザイナー科」の受講者が気になったこと（複数回答）

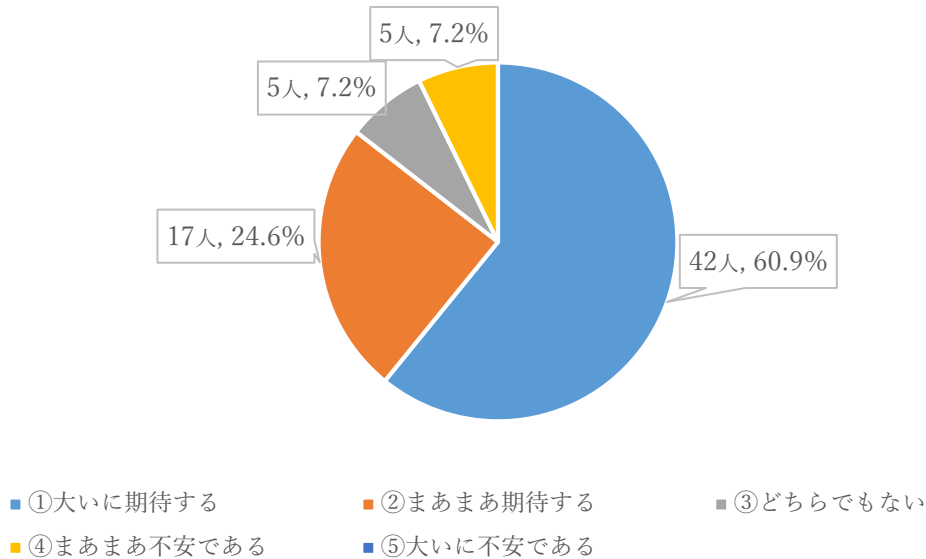


※その他：合格から入所までの期間が短い、機材準備不安

(5) オンライン訓練を受講するに当たりどのように感じるか

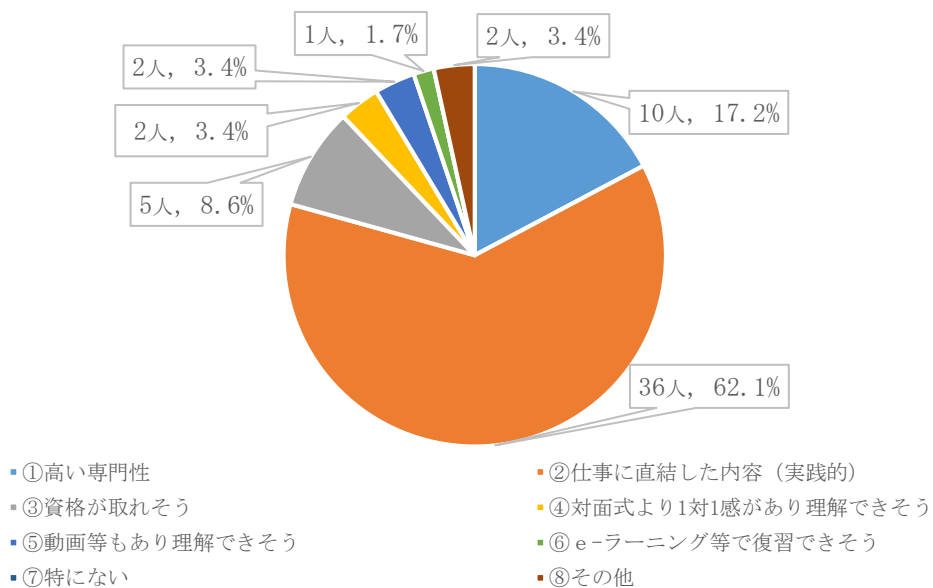
図表3-38に受講者全体の「オンライン訓練を受講するに当たりどのように感じるか」を示す。「①大いに期待する」と「②まあまあ期待する」の合計が85.5%となっており、期待感が大きい。

図表3-38 受講に当たり感じる事(全体) (受講者71人中69人回答)



図表3-38で「①大いに期待する」と「②まあまあ期待する」を選択した期待の具体的内容を図表3-39に示す(①と②59人中58人回答)。「①高い専門性」が17.2%、「②仕事に直結した内容(実践的)」が62.1%で全体の79.3%を占めている。

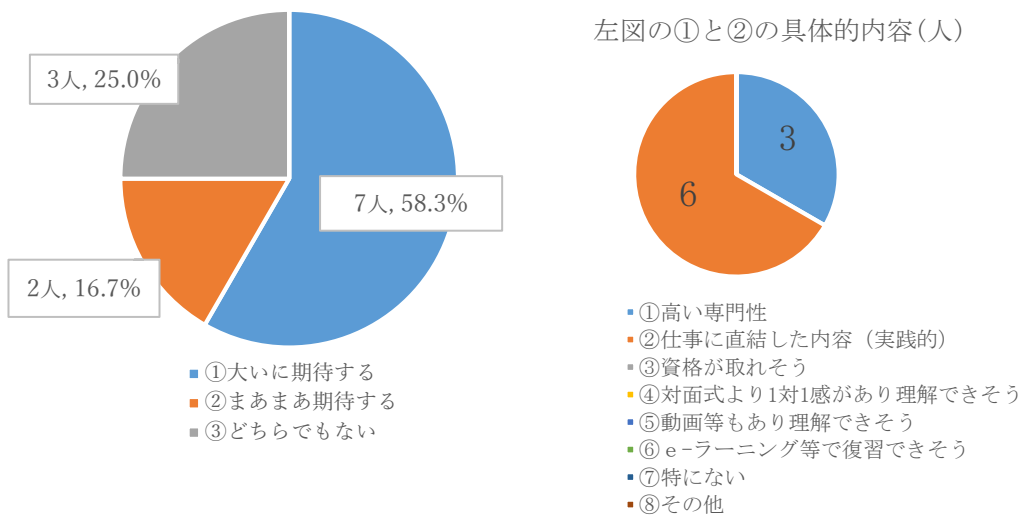
図表3-39 期待の具体的内容(回答者58人)



図表 3-40 から図表 3-44 に訓練コース別「オンライン訓練を受講するに当たりどのように感じるか」を示す。

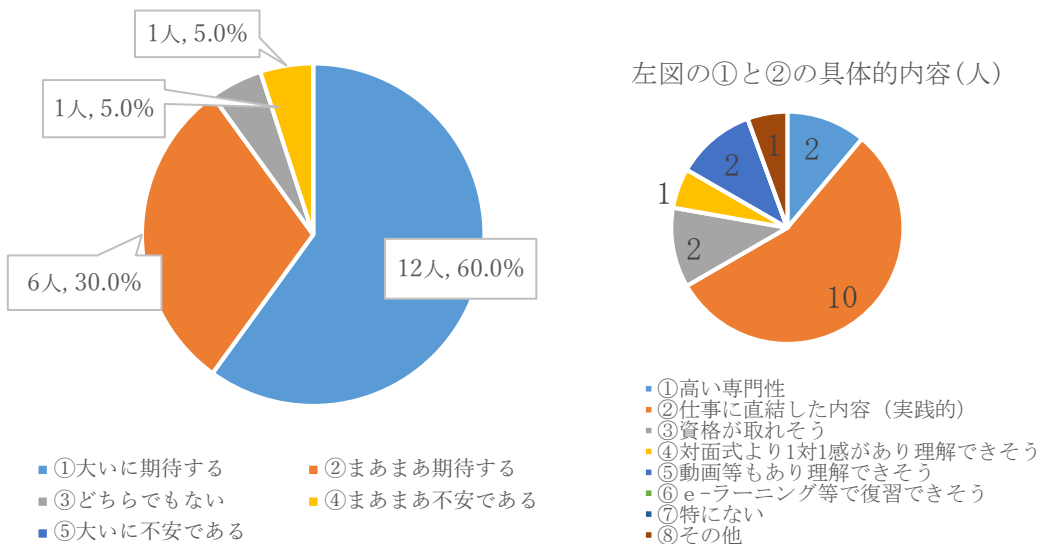
図表 3-40 オンライン訓練の受講に当たり感じること「セキュリティ科」

(受講者 13 人中 12 人回答)



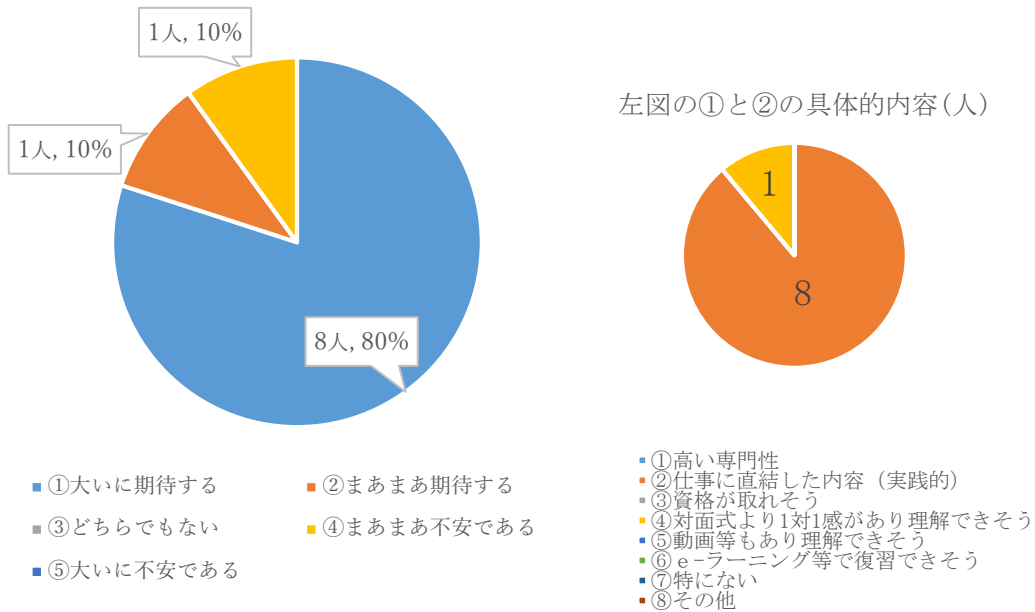
図表 3-41 オンライン訓練の受講に当たり感じること「Web アプリ科」

(受講者 20 人中 20 人回答)



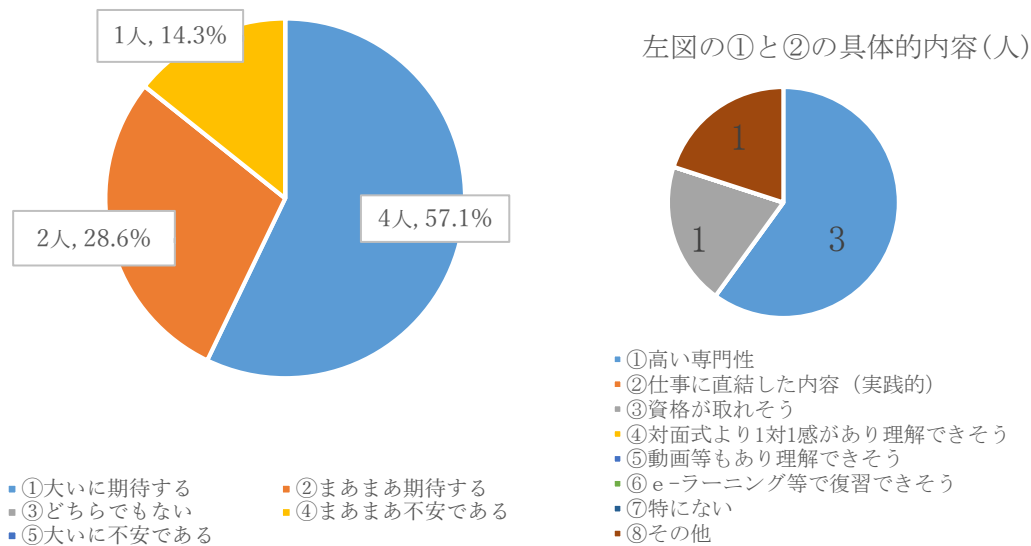
図表3-42 オンライン訓練の受講に当たり感じること「IT人材科」

(受講者10人中10人回答)



図表3-43 オンライン訓練の受講に当たり感じること「IT導入科」

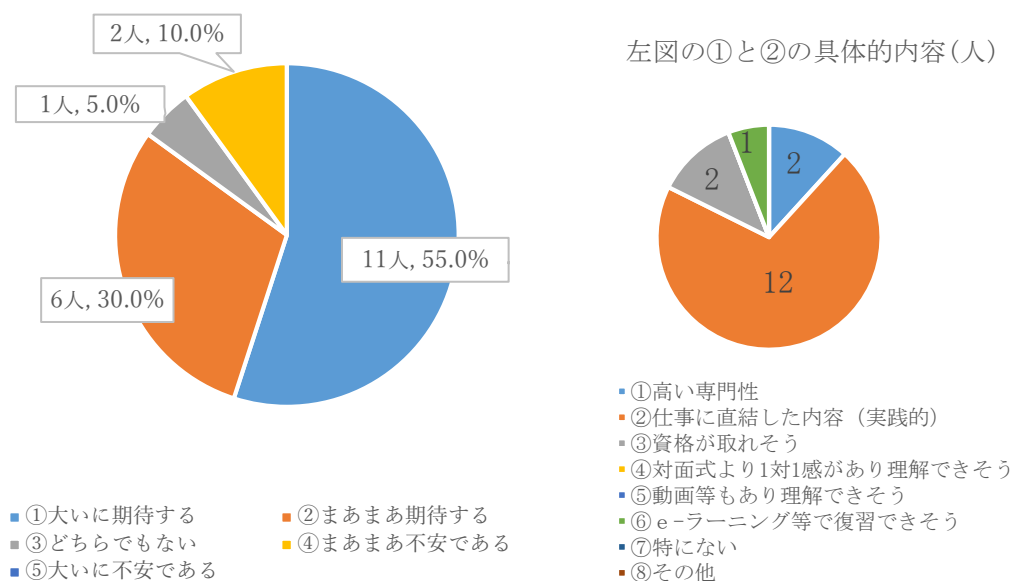
(受講者8人中7人回答)



※その他：⑤⑥を期待

図表 3-44 オンライン訓練の受講に当たり感じる事「Web デザイナー科」

(受講者 20 人中 20 人回答)

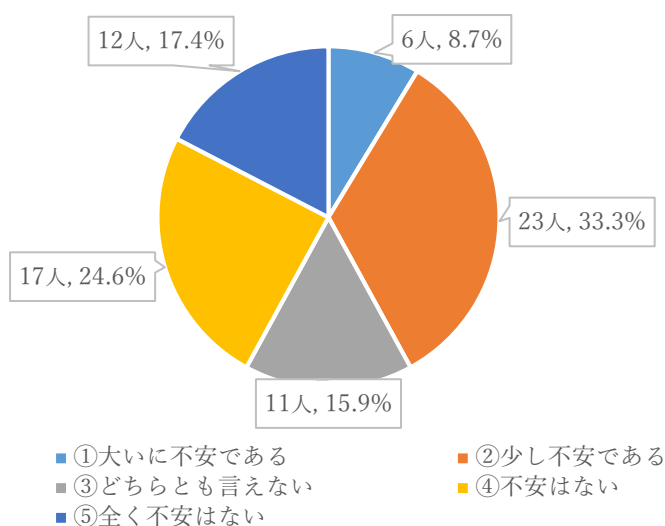


(6) パソコン等通信機器で不安を感じるか

図表 3-45 にパソコン等通信機器で不安を感じるかについて示す。

「①大いに不安である」と「②少し不安である」は 42.0%で、「④不安はない」と「⑤全く不安はない」は 42.0%でどちらも同じ割合になっている。

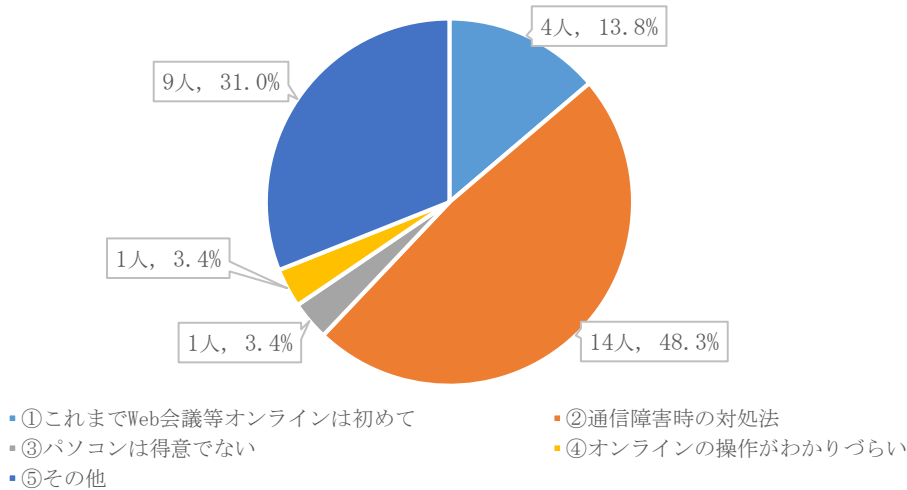
図表 3-45 パソコン等通信機器で不安を感じるか(全体) (受講者 71 人中 69 人回答)





図表3-45で「①大いに不安」と「②少し不安である」を選択した不安の理由を図表3-46に示す(①と②29人中29人回答)。理由としては、「①これまでWeb会議等オンラインは初めて」(13.8%)と「②通信障害時の対処法」(48.3%)で全体の62.1%を占めている。

図表3-46 ①と②の選択理由 (回答者29人)

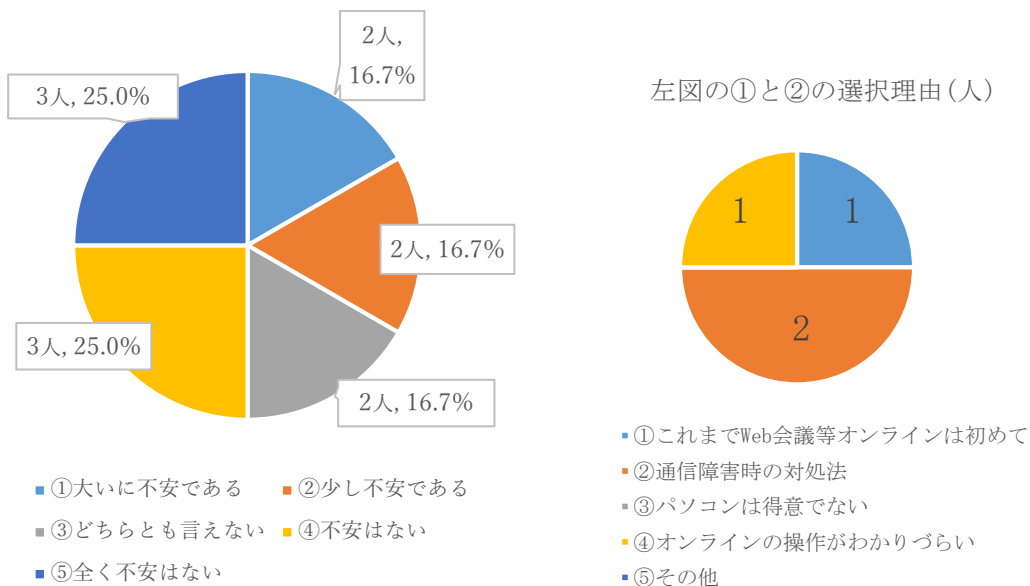


※その他：PCのスペックが最低速度のため、地域が通信不安定、Teamsの動作、通信障害時の受講扱い(出席/遅刻/欠席)、環境良くない時間帯ある、複数処理で不安、バージョン違いで項目が異なる、PC不得意、PCのフリーズ

図表3-47から図表3-51に訓練コース別パソコン等通信機器で不安を感じるかについて示す。

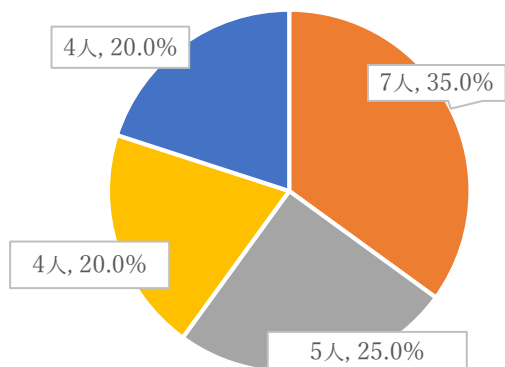
図表3-47 パソコン等通信機器で不安を感じるか「セキュリティ科」

(受講者13人中12人回答)



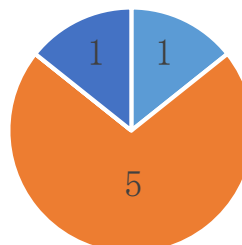
図表3-48 パソコン等通信機器で不安を感じるか「Web アプリ科」

(受講者 20 人中 20 人回答)



- ①大いに不安である
- ②少し不安である
- ③どちらとも言えない
- ④不安はない
- ⑤全く不安はない

左図の①と②の選択理由(人)

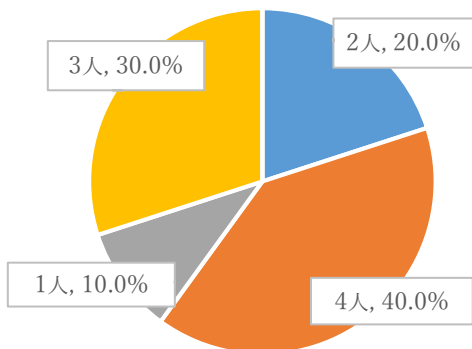


- ①これまでWeb会議等オンラインは初めて
- ②通信障害時の対処法
- ③パソコンは得意でない
- ④オンラインの操作がわかりづらい
- ⑤その他

※その他：PCのスペックが最低速度のため

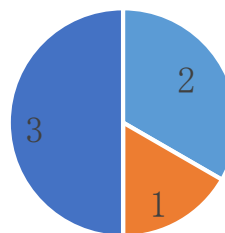
図表3-49 パソコン等通信機器で不安を感じるか「IT 人材科」

(受講者 10 人中 10 人回答)



- ①大いに不安である
- ②少し不安である
- ③どちらとも言えない
- ④不安はない
- ⑤全く不安はない

左図の①と②の選択理由(人)

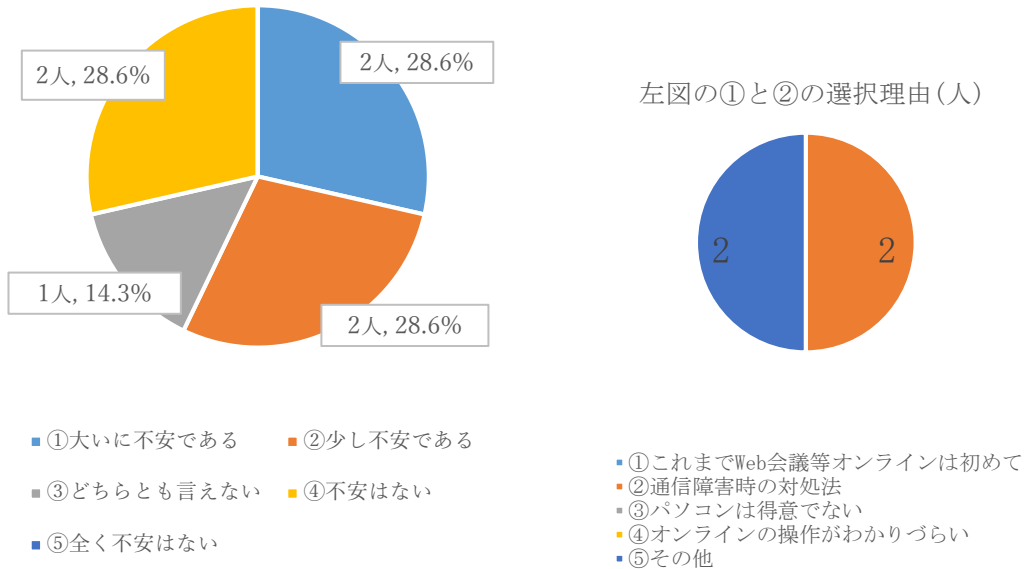


- ①これまでWeb会議等オンラインは初めて
- ②通信障害時の対処法
- ③パソコンは得意でない
- ④オンラインの操作がわかりづらい
- ⑤その他

※その他：地域が通信不安定。Teamsの動作。通信障害時の受講扱い(出席/遅刻/欠席)

図表3-50 パソコン等通信機器で不安を感じるか「IT 導入科」

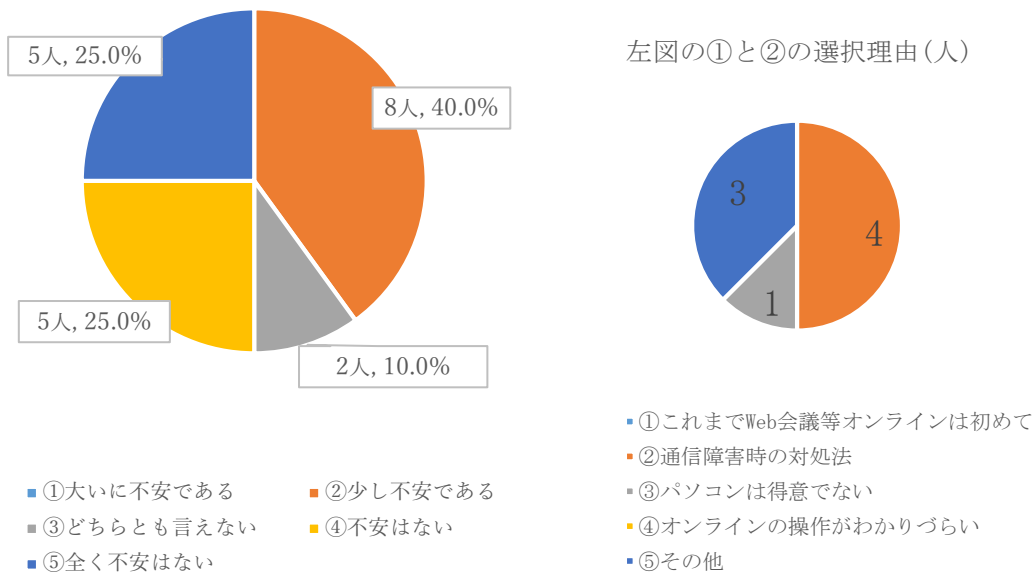
(受講者8人中7人回答)



※その他：環境良くない時間帯ある、複数処理で不安

図表3-51 パソコン等通信機器で不安を感じるか「Web デザイナー科」

(受講者20人中20人回答)

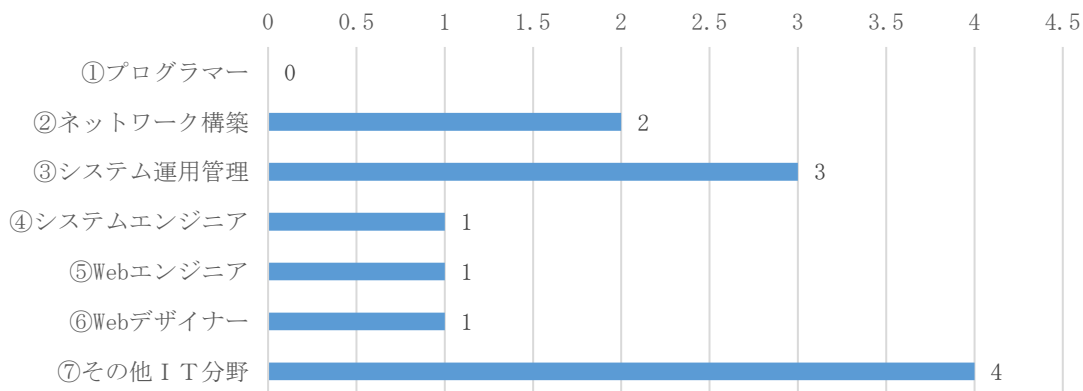


※その他：バージョン違いで項目が異なる、PC 不得意 PC のフリーズ

(7) 訓練コース別就職希望職種

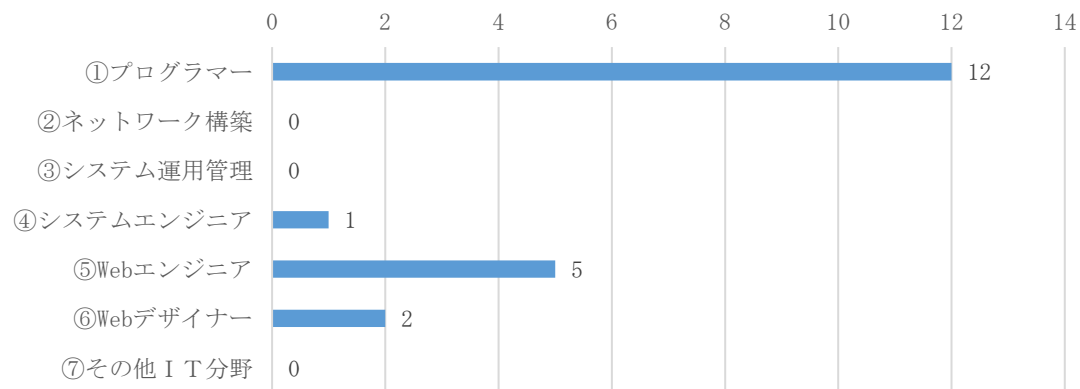
図表 3-52 から図表 3-56 に各訓練コース別受講者の就職希望職種を示す。受講者の就職希望職種は、コースガイドに記載されている各訓練コースの「想定職種」とほぼ一致している。

図表 3-52 「セキュリティ科」受講者の就職希望職種 (受講者 13 人中 12 人回答)

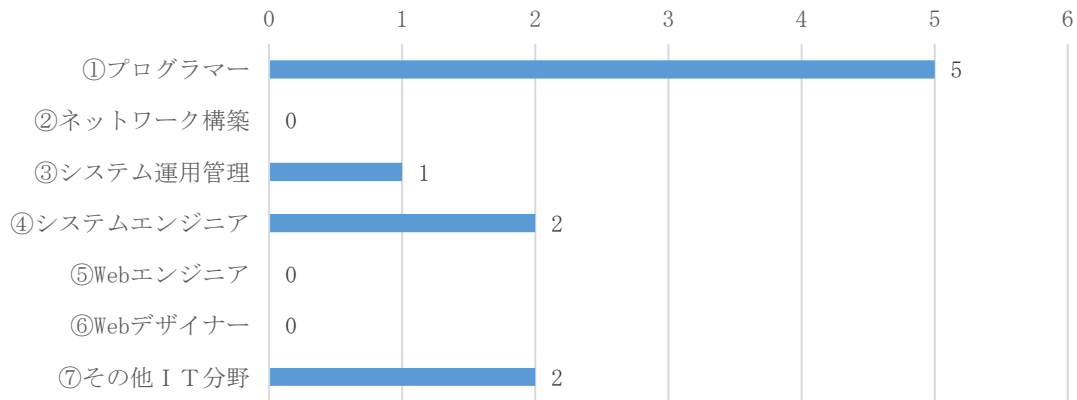


※その他 IT 分野：ホワイトハッカー、セキュリティ担当者、ネットワークセキュリティ対策、脆弱性診断

図表 3-53 「Web アプリ科」受講者の就職希望職種 (受講者 20 人中 20 人回答)

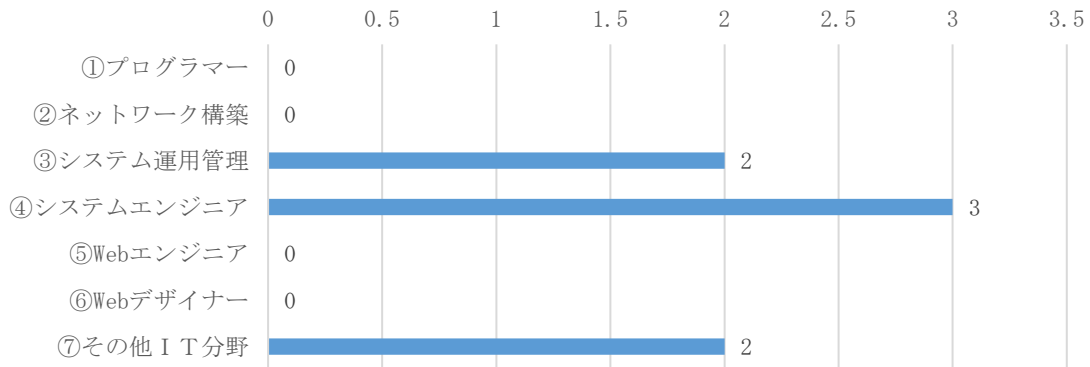


図表3-54 「IT人材科」受講者の就職希望職種（受講者10人中10人回答）



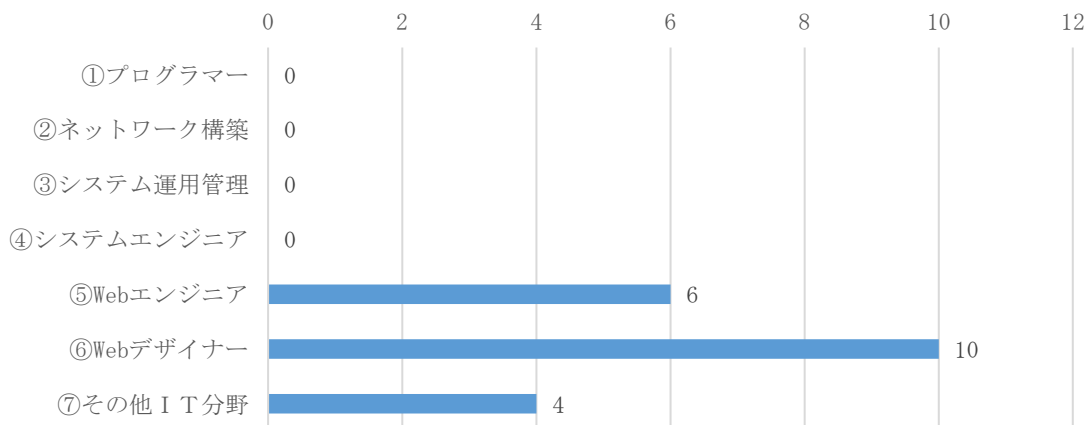
※その他IT分野：IT事務系、経理等バックアップ業務

図表3-55 「IT導入科」受講者の就職希望職種（受講者8人中7人回答）



※その他IT分野：カスタマーサポート、ITアドバイザー

図表3-56 「Webデザイナー科」受講者の就職希望職種（受講者20人中20人回答）



※その他IT分野：企画・広報、Web関係、コーダー、Webデザインを活かした営業

## 4-2 訓練実施機関へのヒアリング調査結果

訓練実施機関に対しフルオンライン訓練を実施するに当たって、事前にどのような課題を想定し、訓練を実施する上でどのように解決しようとしているかをヒアリングにより調査した。

### (1) 訓練実施機関におけるオンライン用ツールの活用実績

今回、訓練実施機関の選定においては、フルオンライン訓練の実績は条件にしているものの、結果として公的職業訓練や企業研修などにおいてオンライン用ツールの活用実績が確認された。

### (2) 対面式訓練と比較してフルオンライン訓練で想定される課題(複数回答)

訓練実施機関が想定している課題は、多い順から①「受講者の習得度」、②「訓練指導の方法」、⑤「修了者の就職率」、⑧「受講者とのコミュニケーション」となっており、フルオンライン訓練を実施して行く上で認識すべき点であり、工夫を要する点でもある。特に、②訓練指導の方法は、パソコン操作の場合、つまづいたポイントが把握しづらいと思われる。などの意見があった。

① <u>受講者の習得度</u>	・・・	4
② <u>訓練指導の方法</u>	・・・	3
③訓練用の教材	・・・	1
④就職支援の方法	・・・	2
⑤ <u>修了者の就職率</u>	・・・	3
⑥通信障害時の対処方法	・・・	2
⑦事務手続き	・・・	2
⑧ <u>受講者とのコミュニケーション</u>	・	3
⑨訓練の委託費	・・・	1
⑩その他	・・・	1

### (3) フルオンライン訓練を企画する上で工夫した点

今回、訓練を企画する上で上記(2)の課題と想定されるもの等も含めて、訓練実施において工夫した(実施しようとしている)ところは、次のとおり。なお、全ての訓練実施機関が同じように対応しているものではない。

#### ①訓練効果を高めるために：

- ・事例に基づいたサイバー攻撃の演習をクラウドで実施できるようにした。
- ・パソコンを受講者へ1台貸与し、実習時に受講者の画面上の操作が訓練実施機関側で確認できるようにし、また、受講者からの質問等に対し遠隔操作できるよ

うにしている。

- ・復習するポイントを的確に教示する。また、訓練の録画を撮り、いつでも復習できるようにする。
- ・毎日確認テストを行い、単元ごとのテストも行う。
- ・1日の終わりに日誌をつけてもらい、質問があればそれに回答していく方法を取る。

②訓練の効率を高めるために：

- ・コミュニケーションツール(Chatwork[6])やGoogle Drive[5]を活用し、データのやり取りが安全かつスピーディーに行われるようにした。

③モチベーションを高めるために：

- ・資格取得(3ヶ月での技術習得でITエキスパート)を目標とした。
- ・オンライン訓練は単調になりがちなので頻繁にあてる。

④受講者とのコミュニケーションを図るために：

- ・受講者からリーダーとサブリーダーを選出(自薦)し、オンライン座談会やオンラインお茶会などのオンラインによるイベントを受講者に企画させる。
- ・上記③の頻繁に声掛けをすることは受講者とのコミュニケーションにも繋がる。

⑤就職率を高めるために：

- ・訓練の後半に土日以外に週中に休日を入れて予備日とした。(企業訪問(平日の訪問)等就職活動をしやすくしたもの。)
- ・求人ニーズを考慮しWebデザイナーを企画した。

⑥安全衛生のために：

- ・休憩は15分、昼休みも長めにした。(画面をずっと見るのは疲れるため。)

#### (4) パソコン等通信機器の通信障害発生時の対応策

いずれの訓練実施機関においてもこれまでの実績の中で大きな通信障害等が発生したことはないが、仮に発生した場合には、速やかに受講者に連絡を取り、接続状態を確認し、回復に向けた対応を取るなど、万が一に備えていた。例えば、オンライン用ツールには、一度通信が途切れてもログイン状態が残っており、すぐ復帰することができるものもある。また、パソコン以外でスマートフォンから参加できるため、一時的にそれを使用する予定もあった。なお、ほとんどの実施機関は、通信が途切れても訓練は録画しているため、いつでも復習は可能である。

#### (5) 受講者間のコミュニケーションの方法

第2章第2節インターネットを活用したアンケート調査結果において、「オンライン訓練を受講する場合、対面式訓練と比較してデメリットは何か」に対し「受講者同士のコミュニケーションが十分に取れない」が28.6%と2番目に多い。また、オン

ライン訓練に関する要望(自由記述)でも、「受講者同士でコミュニケーションが取れるような仕組みもあると良い」といった意見も多くあった。このことから、訓練実施機関に対し訓練開始前に考えられている受講者間のコミュニケーションの方法について確認した。

各訓練実施機関により対応は多少の違いはあるものの、受講者間のコミュニケーションについての認識はあった。例えば、オンライン用ツールのチャット機能や掲示板を活用したり、班割機能を活用して受講者同士の話し合いを持たせたり、昼休みを利用して、受講者同士で話せるように講師がいないブレイクアウトルームを用意するなどであった。また、上記(3)④の受講者の中からリーダーとサブリーダーを選出(自薦)し、訓練以外のオンラインによるイベントを企画することも、受講者間のコミュニケーションにも繋がるものである。

## (6)教材

フルオンライン訓練を実施するに当たり、教材はどのように準備したかを確認した。教材は、オンライン訓練用に作成、あるいは対面式訓練の教材をそのまま使用、または一部変更して使用していた。また、手元の筆記を映す書画カメラを活用しているところもあった。

- ①オンライン訓練用に教材を作成した ……………(1 訓練実施機関)
- ②対面式訓練の教材をオンライン訓練用に一部変えた ……(2 訓練実施機関)
- ③対面式訓練の教材をそのまま使用のみ ……………(1 訓練実施機関)
- ④上記①②に加え、対面式訓練の教材をそのまま使用するが、  
他に資料を多くした ……………(1 訓練実施機関)

## (7)就職支援

フルオンライン訓練において、就職支援をどのように実施するのかを確認した。基本は対面式訓練と変わることはなかった。具体的には、就職活動の方法(計画)、履歴書・職務経歴書の作成方法、ジョブ・カード作成支援、面接指導、求人情報検索等で、受講者個々の履歴書等の添削や就職活動状況を確認しながら、キャリアコンサルティング時に1対1のオンラインで就職活動の支援を行うものである。基本的には、自分で行う就職活動の方法を指導している。

また、受講者は全国から受講しているため、訓練実施機関の所在地以外の受講者の居住地やそれ以外の都道府県での就職希望者に対しては、ハローワークからの情報や希望する企業、地域等について情報を得るための支援を行う。また、訓練実施機関の傘下の全国の関連事業所へ情報提供を考えている実施機関もあった。



#### 4-3 ハローワークへのヒアリング調査結果

ハローワークへのヒアリング調査は、応募者数が多かった神奈川県内のハローワーク3所に対して行った。ヒアリング項目は、「特別な周知広報を行ったか」、「応募に至った主な理由」、「応募に至らなかった主な理由」、「他の都道府県で実施される訓練コースを紹介する上で大変なことは何か」等である。

##### (1) 今回のフルオンライン訓練について、何か特別な周知広報を行ったか

- ・3所ともポスター掲示等の特別な周知はしていなかった。
- ・訓練担当者以外の他部門への積極的な情報提供もしていない。
- ・応募者はインターネット等自発的に情報収集をして窓口に来ていた。

##### (2) 応募に至った主な理由

- ・育児のため在宅であれば訓練の受講が可能な状態であった。
- ・障害(パニック障害等)により電車での通所に難があり、自宅での訓練を希望していた。
- ・コロナウィルス感染リスクを考え集団の場での訓練を希望せず、自宅での訓練を希望していた。
- ・アルバイト就労で転職のため。

##### (3) 応募に至らなかった主な理由

- ・フルオンライン訓練と対面式訓練を比較し、質問のしやすさ、受講生同士のつながりを考え、対面式訓練を選択した。
- ・通信環境及び機材の準備に不安を感じた。
- ・全国の募集に対し、定員が少数であることから選考倍率が高くなることを想定し、申込まなかった。
- ・対面式訓練と比べ、検証事業であることもあり訓練情報の詳細が乏しく、訓練内容の把握が難しかった。
- ・家庭の事情もあり、家だと難しい。

##### (4) 他の都道府県で実施される訓練コースを紹介する上で大変なことは何か

- ・3所とも特にないとのことであった。ただし、訓練コースガイドには応募者への合否結果通知日が記載されておらず、問い合わせがあっても、回答できず困った。事前にわかっていたら、仮に不合格だった場合、次にどの訓練を受けられるか案内がスムーズにできたということであった。

**(5) 公的職業訓練のフルオンライン訓練は、今後も進めるべきか**

- ・ 3所とも進めるべきと思うという意見であった。

**【理由】**

- ・ 今回のように訓練対象者の条件が無いのがいい。
- ・ フルオンライン訓練のメリットは在宅勤務が増え、かつ IT 分野を希望する人にとってはいい。
- ・ 地方にとっては通所する必要が無く受講機会が確保できるからよい。ただ、自宅だと勉強ができないからと通所を希望する人がいるのも事実であり、質問はどうやってするのか、訓練についていけなくなった時はどうするのかと考える人もいる。
- ・ 今回の訓練の趣旨を考えると、受講機会の少ない地方に居住する人を対象としても良かったのではないか。

**(6) 今回、訓練コースの説明会は実施しなかったが、説明会は必要か**

- ・ 3所とも説明会はあったほうが良いという意見であった。

**【理由】**

- ・ 通所の場合は、実施施設の雰囲気やコロナ感染対策状況等、自分が納得して受講できるようにするためにも説明会を勧める。
- ・ 他の職業訓練においても受講後のミスマッチが起きないためにも、説明会は参加するよう促している。
- ・ オンライン等で募集期間の初め、中頃、終り頃と3回にわけてあるといい。元々 IT 分野に興味のある者は、URL を提示して説明会に案内するという方法であっても抵抗はない。

**(7) 事務書類のデジタル化について**

- ・ 仮に事務書類等をデジタル化するなら、このコースだけでなく全てのコースでやらないと煩雑になる。

- ・ デジタル化はしなくてもいいが、申込書送付のスキーム立てをしてほしい。

**(8) その他**

全体を通して気づいた点について、主な意見を以下に示す。

- ・ 検証事業であり周知期間、周知方法が限定されていたため、情報を知らない方も多くいたと思われる。今後、フルオンライン訓練の実施が恒常的に行われるようになれば一定の申込希望者はいると思われる。

- ・ フルオンライン訓練である以上、日々通信環境に左右され、訓練自体においても質疑応答やフォローアップは対面式に比べ難しい部分が想定されるとともに、訓練と同様に重要となる就職支援において効果的な支援が行われるのか等、検証結果の

精査が重要と思う。

- ・主に若年層、通信環境が整備された求職者に対して有効なものではあると思われるので、必要な技能のみが不足する一部の就職意欲の高い求職者に対しては有効な就職への手段になり得るものであると思う。ただし、検証結果次第である。
- ・今回の訓練の趣旨を考えると、受講機会が少ない地方に居住する人を対象として、関東地方の人は対象外としてもよかったのではないかと。